明日をひらく地域活性化のための情報誌

地域づくり 本編

2020
5
ISSN 1340-8917



令和元年度ふるさとイベント大賞

本誌は、宝くじの社会貢献広報事業として助成を受け作成されたものです

地域づくり　2020-5

CONTENTS

1　巻頭エッセー／「人と自然がいきいきと調和し、真の豊かさと幸せを実感できる山形」の実現に向けて　吉村美栄子（山形県知事）

特　集

令和元年度 ふるさとイベント大賞

大賞（内閣総理大臣賞）〈1団体〉　●地獄の谷の鬼花火【北海道登別市】 2
最優秀賞（総務大臣表彰）〈1団体〉　●よさこい祭り【高知県高知市】 4
優秀賞〈3団体〉　●能登小木港イカす会2019【石川県能登町】 6　●RENEW【福井県鯖江市】 8　●柳川雛祭り さげもんめぐり【福岡県柳川市】 10
ふるさとキラリ賞〈2団体〉　●狐の夜祭り【新潟県柏崎市】 12　●Humanoise Project（農村舞台音楽公演）【徳島県那賀町】 14
選考委員特別賞〈1団体〉　●フェスティビタス ナタリス2019【長崎県南島原市】 16

【特集編では大賞・最優秀賞ほか、計32表彰を紹介～特集編のみに掲載される表彰は以下の通り】

●次点
荒馬まつり【青森県今別町】
第16回川俣シャモまつりin川俣【福島県川俣町】
あるけあるけ初日詣大会【福島県浪江町】
かさま新栗まつり【茨城県笠間市】
国分川鯉のぼりフェスティバル【千葉県市川市】
スミファ（すみだファクトリーめぐり）【東京都墨田区】
奈良田盆踊り復活祭【山梨県早川町】
第5回ウエルカム三才児まつりinスポーツパーク【長野県長野市】
三嶋大祭り【静岡県三島市】
第12回 やらまいか ミュージックフェスティバル in はままつ【静岡県浜松市】
夜桜と竹灯篭宵まつり【愛知県東浦町】
額田のダシまつり【京都府福知山市】
みかた残酷マラソン全国大会【兵庫県美方郡香美町】
サンタ×三田プロジェクト【兵庫県三田市】
ススキ提灯献灯行事及び大神輿渡御【奈良県御所市】
能登原とんど【広島県福山市】
うだつマルシェ【徳島県三好市】
俳句甲子園 全国高等学校俳句選手権大会【愛媛県松山市】
ダルメイン 世界マーマレードアワード&フェスティバル日本大会【愛媛県八幡浜市】
山師達人選手権大会【高知県馬路村】
伊万里大川内山 ボシ灯ろうまつり【佐賀県伊万里市】
由布院牛喰い絶叫大会【大分県由布市】
いぶすき菜の花マラソン大会【鹿児島県指宿市】
伊平屋ムーンライトマラソン【沖縄県伊平屋村】

レギュラーリポート

18　海外調査報告　シンガポール
教育におけるデジタルスキルの向上

19　海外調査報告　フィンランド
子どもの学びと居場所づくり

20　移住・定住・交流推進支援事業　兵庫県丹波市
強くてやさしい安心社会をめざして　秋山晃二

22　地方創生へ一ウッドスタート宣言　奈良県吉野町
学習指導要領に沿った木育授業　門西克将

23　令和元年度土日集中セミナー
人と地域がつながる農山漁村ツーリズム

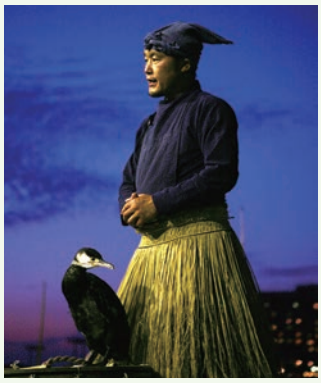
24　世界遺産　大阪府
大阪初の世界遺産が誕生　金森真澄

26　インタビュー　長崎真友子
元地方局アナが地方創生を応援

27　首長の思い
地域主体のまちづくり　不嶋豊和（石川県七尾市長）

グラビア
28　都道府県漫遊　【佐賀県】
表3　手前みそですが…　【京都府木津川市】

表紙　ぎふ長良川の鵜飼



鵜匠の杉山秀二さん

岐阜市は、金華山や清流・長良川など豊かな自然に恵まれており、斎藤道三公、織田信長公ゆかりの岐阜城をはじめ、歴史や伝統文化が今もなお息づいています。

なかでも、5月11日（月）～10月15日（木）に開催する「ぎふ長良川の鵜飼」は、1300年以上の歴史があり、岐阜の夏の風物詩として受け継がれています。緑豊かな金華山を背景に、6隻の鵜舟が赤々とかがり火をたきながら「鵜飼漁」をするさまは、まさに古典絵巻さながらで見る人を幽玄の世界へと誘います。

2020年は、岐阜県ゆかりの明智光秀公が主人公のNHK大河ドラマ「麒麟がくる」が放送されており、それに合わせて「麒麟がくる岐阜　大河ドラマ館」を岐阜市歴史博物館内に開設しました。体験シアター、大河ドラマに登場する衣装や小道具、スタジオ再現セットなど大河ドラマの世界を楽しんでいただける展示をしております。

美しい自然と歴史文化に育まれた岐阜市へのお越しを心からお待ち申し上げております。

（岐阜市）

問い合わせ先＝岐阜市ぎふ魅力づくり推進部　鵜飼観覧船事務所
（058-262-0104）
（写真提供＝岐阜市）

ESSAY

巻頭エッセー

「人と自然がいきいきと調和し、真の豊かさと幸せを実感できる山形」の実現に向けて

山形県知事 ● 吉村　美栄子



山形県は、「つや姫」「雪若丸」のブランド米や「米沢牛」、サクランボ・洋ナシ「ラ・フランス」など多種類の果実、「庄内北前ガニ」といったおいしい食べ物と、日本一とも称されている日本酒やワインがある「美食・美酒県」です。6月からは、品質・生産量ともに日本一のサクランボの本格的なシーズンとなります。

また、四季折々に美しい姿を見せる豊かな自然、東日本随一の精神文化を誇る出羽三山、全ての市町村に湧いている温泉など、山形は多彩な魅力にあふれている県です。新型コロナウイルスの影響で、外出自粛されている中ではありますが、終息したあかつきには、ぜひ心身を癒やしに山形にお越しいただき、多彩な魅力をご堪能ください。

さて、「令和」という新しい時代の到来に当たり、私は改めて、県民の皆様の幸せのため、県勢発展のために新しい時代を切り拓くという気概をもって、県政運営に取り組んでいかなければならないとの思いを強くしたところであります。

今年は、県づくりの指針となる「第4次山形県総合発展計画」のスタートの年となります。県民一人ひとりの希望や想いを大切にして、真の豊かさ、生きがい・幸せを実感でき、将来にわたって持続的に発展し続ける、質の高い「新しいやまがた」の暮らし、社会経済、地域の姿を目指してまいります。そして、このような姿を実現するため、これからの県づくりにおきましては、「人材」「イノベーション」「国内外の活力」の三つを推進力としてまいります。

このような県づくりを、中長期的な視点も踏まえて、総合的・効果的に展開していくことは、人口減少下でも本県が自立的・持続的に発展していくための力を高めていくことになります。さらに、将来を担う多くの若者が県内で暮らし、働き、結婚・子育てしたいという希望を実現することにつながっていきます。

これにより、若者をはじめとする多くの人材が山形での暮らしを希望するという「人口減少の対応策と抑制策」の好循環を創出し、少子高齢化を伴う人口減少を乗り越えていきたいと考えております。

このような観点を踏まえた取り組みとして、県と市町村に加え、産業界や大学などの各団体からも参画いただいて、新たな移住・定住推進に向けた法人組織「一般社団法人ふるさと山形移住・定住推進センター」を今年4月に設立し、オール山形で移住定住者の増加や若者の県内定着の促進に向けた取り組みを一体的に展開しております。

また、本県が誇る美食・美酒や豊かな自然、精神文化などの地域資源を活かした良質で魅力ある観光地域づくりと戦略的な誘客を進めるとともに、文化やスポーツも積極的に活用して国内外との交流を拡大し、「観光立県山形」の確立を目指してまいります。

さらに、本県はこれまで、再生可能エネルギーの導入拡大や、女性活躍促進を図るウーマノミクス、森林資源を活かして雇用創出や持続可能な地域経済の基盤をつくる「森林ノミクス」など、持続可能な開発目標（SDGs）に通じる先駆的な施策を展開してまいりました。今後も、地球規模の持続可能な社会の実現に貢献していくといった視点を持って、令和という新しい時代の県づくりを進めてまいります。

結びに、山形ではこうした取り組みを通して、これからの県づくりの目標である「人と自然がいきいきと調和し、真の豊かさと幸せを実感できる山形」の実現に全力を尽くしてまいりますので、皆様には、なお一層のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。



評価のポイント

●湯の守り神「湯鬼神」による伝説の一つとして催されており、北海道遺産にも選定されている登別地獄谷を舞台としている。
●湯鬼神たちが放つ、噴火のような8㍍もの花火に人々は魅了され、温泉郷である登別のPRの一躍を担っている。
●温泉郷ならではのイベントで、近年増加するインバウンドの旅行形態に着目している。
●宿泊客数の増加に伴う温泉街のホテルや旅館など経済効果が大きく、温泉地の活性化を担っている。
●回数を重ねるごとに観客数も増加している。

次回開催日程

■開催日：令和2年6月1日（月）～ 7月31日（金）（毎週木曜日、金曜日）
■開催場所：登別地獄谷展望台周辺
■問い合わせ先：
・団 体 名　一般社団法人登別国際観光コンベンション協会
・住　　所　〒059-0551 北海道登別市登別温泉町60番地
・電話番号　0143-84-3311　・URL　http://www.noboribetsu-spa.jp/

大賞

第24回
ふるさとイベント大賞

内閣総理大臣賞

地獄の谷の鬼花火







登別温泉は、自然湧出量が1日1万トンを誇る豊富な湯量と、世界的にも珍しい9種類もの泉質が湧出していることから「温泉のデパート」と呼ばれています。北海道遺産である「登別地獄谷」や「大湯沼」のほか、近年は大湯沼川から流れ出る「天然の足湯」が人気を博し、北海道を代表する観光地として近年では年間400万人近い観光客が訪れています。

「地獄の谷の鬼花火」は、平成12年の有珠山噴火により観光客数が減少していたことや、旅館・ホテル完結型の観光形態により商店街の活気が失われていたことに危機感を抱いた協会関係者や地元の若者が中心となり、登別温泉の新たな魅力づくりを目的に平成18年から始まりました。登別地獄谷を舞台に、毎年6、7月の毎週木曜日と金曜日の午後8時30分から実施しています。

人々の幸せを願い、厄を持ち去るために登別地獄谷にすむ湯の護り神「湯鬼神」たちが、銅鑼や太鼓の音とともに舞台へと登場します。そして、人々の厄を集めるための舞を踊り、銅鑼の音に合わせながら8㍍もの火柱が上がる手筒花火を夜空に放ちます。イベントを締めくくる6本打ちは、火柱の勢いと響き渡る銅鑼や太鼓の音が地獄谷に響き渡り、噴火にも似た迫力のある演出が多くの観光客を魅了します。

イベント終了後には、湯鬼神たちとの記念撮影が行われるなど観光客との交流が図られています。このイベントは、旅館やホテルにとどまりがちだった観光客を外へと誘い出し、終了後は多くのお客様が商店街を周遊するなど地域の活性化に大きく寄与しました。また、演者・警備・交通整理などの運営は、登別の街づくりを担う市民団体「元鬼協議会」、登別市職員、企業関係者など市内各地域から集まる多くのボランティアが担っており、地元住民の郷土意識高揚にも貢献しています。

主催者メッセージ



第24回ふるさとイベント大賞にて、栄えある大賞をいただき誠にありがとうございます。何よりうれしいのは「地獄の谷の鬼花火」をボランティアで支えてくれるスタッフの努力が報われたことだと思います。この受賞を励みとして全国に誇れる地域イベントとして育てていく決意です。皆さんのご来泉をお待ちしています。

（一社）登別国際観光
コンベンション協会 係長
中平 將さん

開催DATA

自治体名	北海道登別市
自治体人口	47,675人 ※R1.12末現在の住民基本台帳人口
主催団体	（一社）登別国際観光コンベンション協会、登別市
開催回数	14回
開催日	6月1日～7月31日（毎週木曜日、金曜日）
開催場所	登別地獄谷展望台周辺
観客数	30,000人







評価のポイント

●戦後の不況を吹き飛ばし、市民の健康と繁栄を祈願し、併せて夏枯れの商店街振興を促すための祭り。
●祭りのためにつくられた土佐伝統の「よさこい鳴子踊り」の曲調に乗って、個性豊かにアレンジされて踊る。
●全国および世界で開催されており、祭り開催地の地域振興への寄与とよさこいを通してつながり、絆の醸成への貢献度が高い。
●経済効果は96億円にも上る。
●小中高校の運動会に踊りを取り入れたり、運営体制を考える検討会を開催したり、よさこい祭りを未来へつなげていくための取り組みが行われている。

次回開催日程

■開催日：令和2年8月9日（日）～ 13日（木）
■開催場所：高知市内
■問い合わせ先：
・団 体 名　よさこい祭振興会
・住　　所　〒780-0870 高知県高知市本町1-6-24高知商工会議所内
・電話番号　088-875-1178　・URL　http://www.cciweb.or.jp/kochi/yosakoiweb

最優秀賞

第24回
ふるさとイベント大賞
総務大臣表彰

よさこい祭り

土佐の夏を彩る本家・高知の「よさこい祭り」は、毎年8月9日の前夜祭を皮切りに、10、11日の本番、12日の全国大会・後夜祭と4日にわたり開催されます。

土佐わらべ歌などをヒントに作曲された「よさこい鳴子踊り」の楽曲にて、鳴子を鳴らしながら街頭で踊ります。趣向を凝らした地方車、オリジナルの楽曲、きらびやかな衣装、鳴子を活かした振り付け、踊り子の熱い情熱とはじける笑顔は見る者の心を動かします。

よさこい祭りは、高知商工会議所の発案により昭和29年に戦災と昭和の南海地震からの復興、市民の健康と繁栄、そして商店街の振興を目的として21チーム、750人の踊り子で始まりました。令和元年で66回目を数え、国内外から参加した約200チーム、1万8000人を超える踊り子が市内16カ所の会場を“よさこい一色”に染め上げました。各競技場、演舞場は地域の商店街や町内会などが主体となって運営しており、踊り子として地元の学生や企業チームが参加するなど、地域が一体となるお祭りになっています。

また、よさこい鳴子踊りに魅せられた北海道の学生らが平成4年に始めた「YOSAKOIソーラン祭り」の成功により、各地で鳴子を持ったお祭りが数多く生まれ、時代とともに進化してきました。今では国内200カ所以上で、そして海外でも29の国や地域でよさこいは踊られています。よさこいが各地に広まった大きな要因は枠にとらわれない「自由な踊り」であるからです。自由な発想が踊りを躍動的にさせ、多様性に富ませ、その熱気や活気が見る人を感動させています。

時代や土地柄によって変わっていく“よさこい”は、各地で芽生え、根付き、文化を創造し、街おこしにつながっている素晴らしいお祭りであり、今や春夏秋冬、一年を通して日本はもとより世界のどこかで鳴子が鳴り響いています。





主催者メッセージ



日本のみならず世界中で愛される「よさこい」。その聖地として、南国土佐のよさこい祭りには国内外の約200チーム、1万8000人を超える踊り子が、商店街を中心とした市内16カ所の競演場や演舞場で鳴子を鳴らして舞い踊ります。お目当てのチームを追っかけたり、たくさんの会場を見比べたりするのも高知よさこいの魅力です。

よさこい祭振興会会長
（高知商工会議所会頭）
青木 章泰さん

開催DATA

自治体名	高知県高知市
自治体人口	327,751人 ※R1.12末現在の住民基本台帳人口
主催団体	よさこい祭振興会
開催回数	65回
開催日	平成30年8月9日（木）～12日（日） ※毎年 8月9日～12日
開催場所	高知市内
観客数	約110万人



評価のポイント

●日本有数の沖合イカ釣漁の漁獲量を誇る「イカのまち小木」で行われる、イカのことがすべてわかるユニークなイベント。
●地域の若者が中心となり復活させた。
●県外からの来場者も多く、リピート率も高い。
●10年後の小木を考えるワークショップを行い、地域の人が小さな成功体験を積み重ねることができている。
●漁師の協力により、試行錯誤を繰り返し生きたイカを会場に持ってくるなど地域の人が当事者意識をもって取り組んでいる。
●児童、生徒、大学生や地元漁師など地域一丸となりイベントを成功させており、郷土愛の醸成や生きがいの創出につながっている。

次回開催日程

■開催日：未定（新型コロナウイルスの感染拡大により5月31日の開催を中止）
■問い合わせ先：
・団 体 名　能登小木港スマイルプロジェクト
・住　　所　〒927-0553 石川県鳳珠郡能登町小木15-30-1 小木公民館内
・電話番号　0768-74-0194　・URL　https://www.facebook.com/noto.ogi.smile/

優秀賞

第24回
ふるさとイベント大賞

能登小木港 イカす会 2019

石川県能登町小木地区は人口約2000人の小さな港町ですが、日本有数の沖合イカ釣漁の漁獲量を誇り、「イカのまち小木」として知られてきました。しかし、近年は漁業者、漁船、水揚高が減少し、人口減少・高齢化も進行しています。平成21年には県立水産高校小木分校が閉校し、さらに昭和63年から続く地域産業イベント「イカす会」の開催も途絶えるなど、まちのにぎわいが失われつつありました。

「このまま傍観していてはいけない」と、平成25年に小木地区の若者を中心とした有志が集まり、「笑顔があふれるイカのまち小木」を目指して能登小木港スマイルプロジェクトを結成。AKB48の「恋するフォーチュンクッキー」のダンス動画を作成し小木地区の一体感を高めたり、手作りで小規模の「ミニミニイカす会」を開催したりと、イカす会復活の準備を進めてきました。これらの活動により、平成26年に「能登小木港イカす会」としてイベントを復活させることができました。

能登小木港イカす会は、「少しクレイジーで凄くおいしい、イカの祭。」のキャッチコピーの通り、イカを見て、触れて、知って、食べることができるイカづくしの体験型イベントです。

イベント当日の小木港には出港を控えたイカ釣漁船が大漁旗を掲げてズラリと並び、地域住民と来場者が漁業者の航海の安全と大漁を祈願します。会場では、①石川県漁業調査船「白山丸」に乗船し沖に出るイカ釣漁業体験航海②漁師さんが案内するイカ釣漁船見学③活イカのつかみどりや一本釣り―などが開催されるほか、海産物の炭火焼コーナーや模擬店が並びます。また地元小木小学校と連携し、白山丸漁業体験、漁船見学や授業の成果発表を行うなど、探究心を育む海洋教育「里海科」の授業の場にもなっています。これらの創意工夫により一度は途絶えたイカす会は、県内外から多くの人が訪れるイベントとなり、2019年には来場者が過去最高の1万1000人を記録しました。

主催者メッセージ



イカす会は、日本有数のイカの漁獲量を誇る「イカのまち小木」だからこそできる「少しクレイジーで凄くおいしい、イカの祭。」です。おいしいイカはもちろん、「イカ釣漁の体験航海」や「イカのつかみどり」などここでしかできない体験があります。そして、これらをつくり出す小木地区の人たちとの交流もイカす会の魅力です。

能登小木港スマイルプロジェクト
事務局長
灰谷 貴光さん



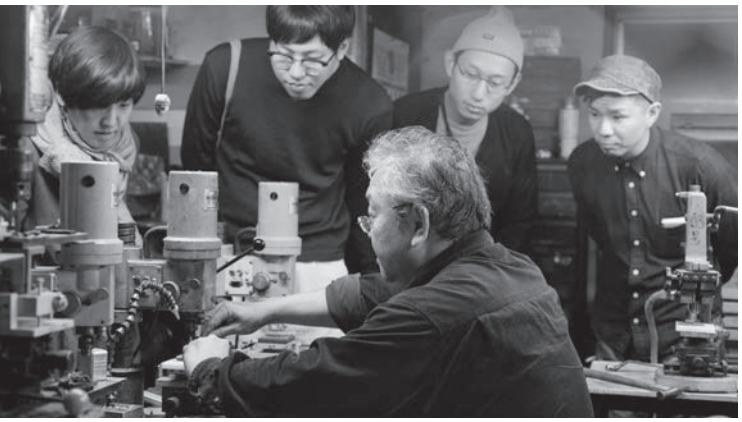




開催DATA

自治体名	石川県能登町
自治体人口	17,011人 ※R1.12末現在の住民基本台帳人口
主催団体	能登小木港スマイルプロジェクト
開催回数	6回
開催日	令和元年5月26日（日）
開催場所	石川県漁業協同組合小木支所 （石川県鳳珠郡能登町小木地内）
観客数	11,000人







評価のポイント

●丹南エリアの地元産業（漆器、和紙、打刃物、タンス、焼き物、眼鏡、繊維）のブランド化、顧客ニーズの把握をくみ取るとともにモノづくりの誇りを取り戻す取り組みとして開催。
●普段は入れない工房を開放し、見学やワークショップという来場者が楽しめるイベント。
●地域の職人に最先端の技術を紹介するなど地域産業のレベルアップに資する取り組みも行っている。
●地元産業への就職者の増加や10店舗のファクトリーショップが新設するなどの結果が出ている。
●先輩移住者によるトークセッションを実施するなど、さらなる移住者を増やすための取り組みを行っている。

次回開催日程

■開催日：令和2年10月9日（金）～ 11日（日）
■開催場所：鯖江市・越前市・越前町全域（総合案内所：うるしの里会館）
■問い合わせ先：
・団 体 名　RENEW実行委員会
・住　　所　〒916-1222 福井県鯖江市河和田町19-1-7（PARK内）
・電話番号　080-7850-5336　・URL：https://renew-fukui.com/

優秀賞

第24回 ふるさとイベント大賞

RENEW

福井県丹南エリア（鯖江市、越前市、越前町）は、半径10㌔圏内に漆器、和紙、打刃物、タンス、焼き物、メガネ、繊維の7産業が集積するものづくりのまちです。この丹南エリア全域で年に1度開催されるRENEWは、工房を開放し、職人との会話や交流を通じてものづくりに親しんでもらう体感型マーケットです。来場者は、実際の工房・企業を巡り、工房見学やワークショップを楽しみながら、どんな職人が、どんな場所で、どんな思いで、どんな技術でものづくりをしているか知ることができます。

RENEWは、産地全体のブランド力に欠けること、顧客目線での商品開発ができていないことを危惧した鯖江市河和田地区の地場産業の担い手たちが、「持続可能な産地をつくろう」と始めたイベントです。立ち上げ当時、二つの目標を掲げました。一つ目は、消費者に産地に訪れてもらい、産地のファンになってもらうこと、二つ目は職人が実際の消費者に触れるきっかけをつくり、顧客ニーズをくみ取るとともに、ものづくりの誇りを取り戻すことです。これらを達成するため、RENEWでは2015年より、民間主導で7産業の産地間ネットワークを形成し、工房開放を通じて、職人に触れ、ものづくりの背景を知る機会を提供してきました。 また、伝統工芸、食、IT、防災など幅広い分野で活躍する全国の団体が集うマーケット「まち／ひと／しごと」を開催し、産地の職人が最先端の取り組みや情報を得られる仕組みを構築しました。さらに、若い人々が継続的に産地に集う仕組みをつくるため、先輩移住者によるトークセッション「移住EXPO」も開催しました。

2015年からの4年間で開催地域内には新規・改装を含めて13のファクトリーショップがオープンし、RENEWをきっかけに丹南エリアへの移住者も現れました。また、ロゴやWEBサイト制作、新規商品開発などに着手した工房も見られるなど、丹南エリアの地場産業活性化につながっています。

主催者メッセージ



RENEWは、福井県丹南エリアの工房を一斉開放する、年に一度の特別な機会。まちを歩けば、次々に漆器や和紙の工房が立ち現れ、ものづくりの息遣いが感じられます。実際の職人から技術や想いに関する話を聞きながら、商品の裏側にあるストーリーに触れ、ぜひ好きな職人や、好きな工房を見つけてもらえたら嬉しく思います。

RENEW実行委員会
事務局長
森 一貴さん





開催DATA

自治体名	福井県鯖江市
自治体人口	69,299人 ※R1.11.1現在の住民基本台帳人口
主催団体	RENEW実行委員会
開催回数	4回
開催日	平成30年10月19日（金）～21日（日） ※例年10月の半ばの週末を含む3日間または4日間
開催場所	鯖江市・越前市・越前町全域 （総合案内所：うるしの里会館）
観客数	延べ3.8万人





評価のポイント

●観光施設や飲食店、古民家など市内約34カ所の「さげもん処（展示会場）」を設け、鑑賞しながら街歩きを楽しめる回遊型のイベント。
●城下町の掘割での川下りを活用した「おひな様水上パレード」や「おひな様始祭」「おひな様行列」など、水郷柳川の特徴を生かした様々なイベントを開催している。
●年間観光入込客数が過去最高を記録するなど、交流人口の増加に寄与している。
●「展示即売会」や「さげもん柳川まりコンテスト」を通じて、伝統文化の継承にも大きな効果を上げている。
●イベントに使う掘割の掃除に市民約2100人が参加するなど、市全体でイベントに取り組んでいる。

次回開催日程

■開催日：令和3年2月11日（木）～ 4月3日（土）（プレオープン1月24日予定）
■開催場所：柳川市内 一帯
■問い合わせ先：
・団 体 名　柳川雛祭り実行委員会（一般社団法人柳川市観光協会 内）
・住　　所　〒832-006 福岡県柳川市沖端町35
・電話番号　0944-73-2145　・URL　http://www.yanagawa-net.com

優秀賞

第24回
ふるさとイベント大賞

柳川雛祭り さげもんめぐり

柳川市では、昔から女の子が生まれると、初節句の際にひな壇の周りに色とりどりの「さげもん」を飾り、盛大に祝うのが習わしです。「さげもん」は江戸時代に起源を持つとされ、縁起の良い鶴やウサギ、ひよこ、這い人形などの布細工とともに、鮮やかな糸で巻き上げた「柳川まり」を組み合わせた飾り付けで、一つ一つに「幸福」や「健康」など、子どもに対する母親や祖母らの願いが込められています。この色鮮やかで心温まる雰囲気の「柳川雛祭り」の伝統を継承していくとともに、新たな観光の目玉とするため、観光施設や店舗などに飾り付けし、柳川の家庭の慣習を公開したことが「柳川雛祭り さげもんめぐり」の始まりです。

祭り期間中は、観光施設や宿泊施設、飲食店、古民家など市内約34カ所の「さげもん処（展示会場）」を設け、彩り豊かな飾り付けを鑑賞しながら街歩きを楽しんでいただけます。また、水郷柳川の観光名物である城下町の掘割での川下りを活用した「おひな様水上パレード」や「おひな様始祭」「きもの日和」など毎週末に様々なイベントを開催しています。今では、柳川の春の風物詩として認知され、国内外から大勢の観光客に訪れていただき、市民が“おもてなしの心”を持ってお迎えしています。

「柳川雛祭り　さげもんめぐり」は平成7年から始まり今年で第26回を迎え、「おもてなしの心 日本一！」を目指す柳川市を代表するイベントとなっています。交流人口の増加と柳川の認知度向上のみならず、地域住民の郷土意識の高揚や伝統文化の継承にも大きく寄与しており、地域活性化につながっています。

主催者メッセージ

さげもんめぐり期間中は、市内各所でたくさんのきらびやかな「さげもん」をご覧いただけます。一針一針想いのこもったさげもんには、思わず「わーっ」と声が出るほど感動していただけることと思います。また、メインイベントの「水上パレード」では稚児姿の女児たちが舟に乗り、堀沿いに飾られたさげもんをくぐり、柳の新芽が芽吹く春の柳川を華やかに彩り皆様をお迎えします。



一般社団法人
柳川市観光協会事務局
江上 夏子さん







開催DATA

自治体名	福岡県柳川市
自治体人口	65,677人 ※R1.12末現在の住民基本台帳人口
主催団体	柳川雛祭り実行委員会
開催回数	25回
開催日	平成31年2月11日（月）～4月3日（水）
開催場所	柳川市内一帯
観客数	約13万人







評価のポイント

●高齢化率100%の栃ヶ原集落も含んだ高柳町で30年も続く創作イベント。
●地域の若者が中心となり地域に元気と誇りを持ってもらおうと始めた。
●空き家を改修し、年間を通じて祭りをPRできるギャラリーを開設するなど、地域とのつながりを生んでいる。

次回開催日程

■開催日：令和2年10月11日（日）予定
■開催場所：新潟県柏崎市高柳町栃ヶ原地区及び漆島地区
■問い合わせ先：
・団 体 名　狐の夜祭り実行委員会（柏崎市高柳町事務所）
・住　　所　〒945-1502 新潟県柏崎市高柳町岡野町1849-1
・電話番号　0257-41-2233　・URL　takayanagi@city.kashiwazaki.lg.jp

ふるさとキラリ賞

第24回
ふるさとイベント大賞

選考委員会表彰

狐の夜祭り

昭和63年、過疎が進む新潟県柏崎市高柳地域の活性化を模索していた地元の若者たちが、富山県利賀村（現·南砺市）で狐の絵を描く画家の故·古川通泰氏と出会い、平成元年に古川氏の協力を得て大作の狐の絵をはさ木に掛けて飾ったのが「狐の夜祭り」の始まりです。その後、年々アイデアを加えて、「藤五郎狐」という地元の民話が伝わる栃ヶ原集落と麓の漆島集落を結んで「狐の提灯行列」を行う現在の姿になっています。

祭りで使用する提灯やお面、大鍋のほか、地元の盆踊りをアレンジした狐の踊りも全て手作りで、実行委員会メンバーだけでなく地元の中学生もボランティアで参加するなど、地域一体となって運営しています。

イベントのメインとなる提灯行列では、狐のお面と白装束に身を包んだ「100匹の狐」が、提灯を片手に栃ヶ原集落から畳1枚ほどの大油揚げを担いで暗闇の道を漆島集落まで行進します。キャッチフレーズである“歩いた人からきつねの気分”のとおり、山々に響く笛の音と連なる100個余りのロウソクの灯りが参加者を幽玄の世界に誘います。神楽や和太鼓を見ながら、大油揚げの振る舞いや地元のキノコ汁など秋の味覚も楽しめるイベントになっています。

また、幻想的な狐の行列や大きな油揚げづくりなど、写真に映えるイベントということもあり、多くの方が写真を撮影し情報発信することで知名度も着実に上昇しています。

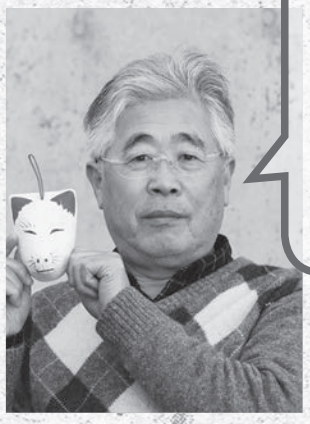
舞台の一つとなる栃ヶ原集落は25世帯で高齢化率100%と人口減少が進む地域ですが、狐の夜祭りを目的として集落の人口を超える観光客が県内外から集まることにより、地域住民の自信や活力を生み出しています。





主催者メッセージ

横笛奏者の小俣達郎さんを先頭に、暮れ始める時間に出発する狐の提灯行列は、祭りのメイン。山々に響く笛の音と連なる100個余りのロウソクの灯りが幽玄の世界に誘います。県内はもとより、遠方から提灯行列に参加するためにおいでになる方々もいらっしゃいます。あなたも「狐の気分」を味わいに高柳町においでになりませんか。



狐の夜祭り実行委員会（所属：ゆめおいびと代表）実行委員長

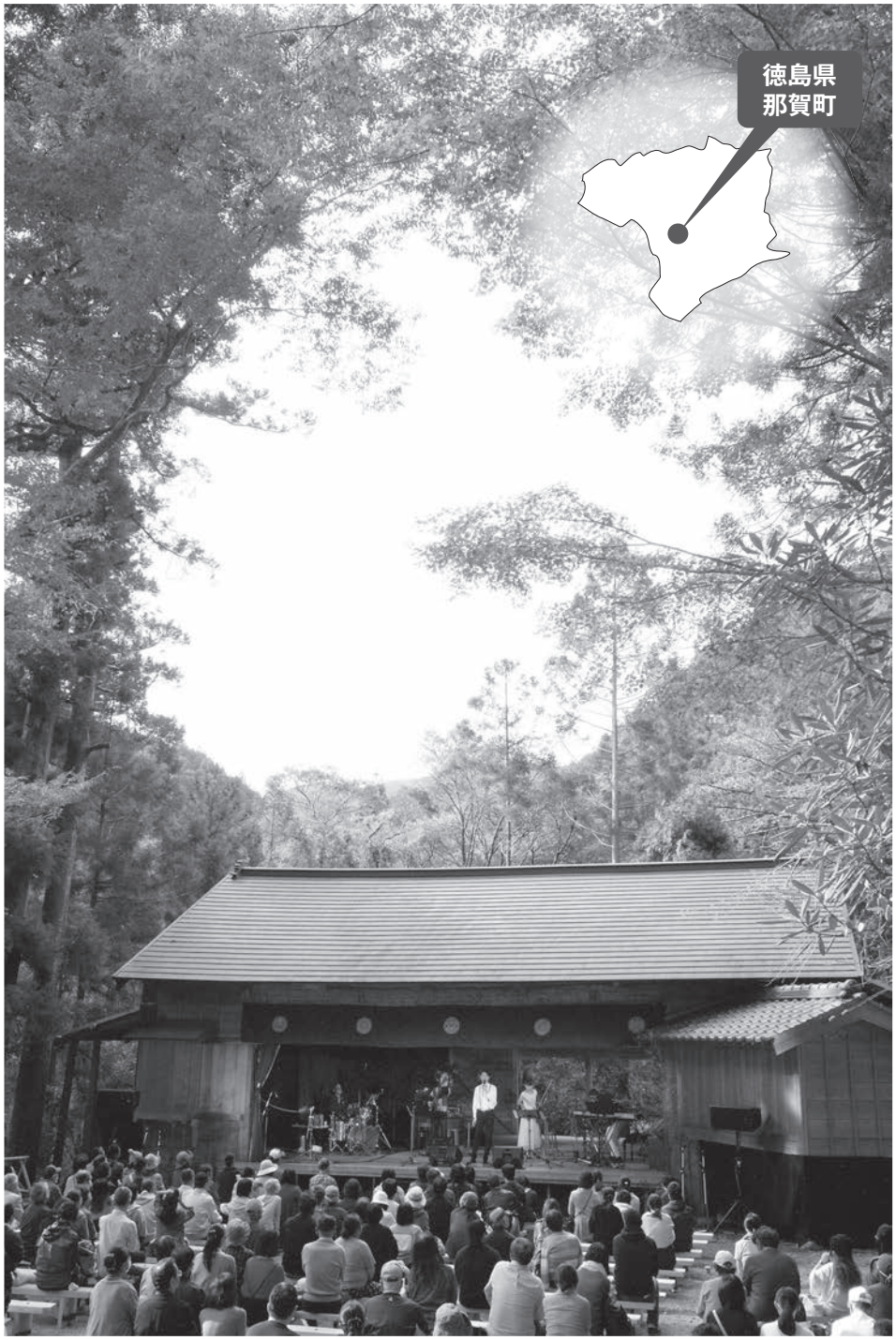
中村 圭希さん

開催DATA

自治体名	新潟県柏崎市
自治体人口	1,286人 ※R1.12末現在の住民基本台帳人口
主催団体	狐の夜祭り実行委員会
開催回数	30回
開催日	平成30年10月14日（日） ※10月第二日曜日
開催場所	新潟県柏崎市高柳町栃ヶ原地区および漆島地区
観客数	3,000人







評価のポイント

●農村舞台の独特な雰囲気を活かし、伝統文化である人形浄瑠璃を併せることにより、付加価値の高い、地域と歴史を感じることのできる他にはない野外音楽イベントとしている。
●野外イベントとすることで人形浄瑠璃に興味のなかった若年層の取り込みに成功している。
●農村舞台保存のため大規模な改修を64年ぶりに地域住民らの出資により行うなど、伝統を維持していく意識につながっている。

次回開催日程

■開催日：令和2年10月18日（日）予定
■開催場所：徳島県那賀郡那賀町西納字かくれごや75 八面神社農村舞台
■問い合わせ先：
・団 体 名　丹生谷清流座
・住　　所　〒771-5406 徳島県那賀郡那賀町延野字王子原31-1
・電話番号　0884-62-0382

ふるさとキラリ賞

第24回
ふるさとイベント大賞

選考委員会表彰

Humanoise Project（農村舞台音楽公演）

中山間地域である徳島県那賀町は、全国にある人形浄瑠璃用農村舞台の約4割（約40棟）が現存するなど、昔から人形浄瑠璃をはじめとする芸能が盛んな地域です。しかし、過疎・高齢化が進み、産業をはじめ様々な伝統文化活動においても後継者不足が深刻な状況となっています。

平成21年、那賀町の伝統文化を絶やしたくないという思いから、地元青年団が中心となり人形浄瑠璃の一座「丹生谷清流座」を結成し、農村舞台公演として人形浄瑠璃を行ってきました。しかし、地域の宝である農村舞台の活用は、人形浄瑠璃の定期公演の開催など6カ所にとどまっていました。

県や町などの行政機関とも連携し、人形浄瑠璃以外の新たな農村舞台の活用方法を模索していたところ、県出身の音楽家である住友紀人氏との出会いから音楽イベントの企画が持ち上がり、平成23年に「Humanoise Project農村舞台音楽公演」が始動しました。

同イベントは、杜の中にたたずむ「八面神社農村舞台」を野外ステージに見立てた音楽イベントです。アーティストと人形浄瑠璃の共演があるなど、通常の音楽イベントにとどまらない地域と歴史を感じることのできる特別なイベントとなっています。

音楽を目的とした参加者など初めて人形浄瑠璃を目にする人も多く、伝統芸能や農村舞台について認知・理解を深めてもらうきっかけになっています。さらに、来場者からは「ここでしか感じられない雰囲気や音楽」と好評を得ており、リピーターが多いのも本イベントの特徴です。地域外の方からの評価を受けることで、地域住民が農村舞台の存在意義を再確認し維持していくことにもつながっています。

また、会場内では地元の特産品である阿波晩茶やユズなどの販売しているほか、温泉施設と協力し宿泊者獲得や道の駅での特産品販売にもつながっており、地域活性化に大きく寄与しています。

主催者メッセージ



地域の宝である農村舞台と伝統芸能の人形浄瑠璃をもっと多くの方に知っていただくため、音楽公演「Humanoise Project」を主催しています。

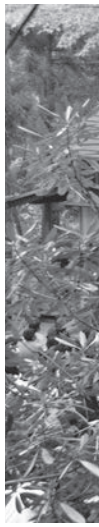
山道を抜け、杜の中に現れる農村舞台。今まで時間が止まっていたかのような雰囲気の中、心地いい音楽が流れてきます。

ぜひ一度、この雰囲気を味わっていただければと思います。

丹生谷清流座
座長
西本 直生さん







開催DATA

自治体名	徳島県那賀町
自治体人口	8,175人 ※R1.12末現在の住民基本台帳人口
主催団体	丹生谷清流座
開催回数	7回
開催日	平成30年11月3日（土）
開催場所	徳島県那賀郡那賀町西納字かくれごや75 八面神社農村舞台
観客数	140人



評価のポイント

●ヨーロッパに伝えられた430年前の報告書をもとに再現した。当時の日本人が初めて出会ったヨーロッパの文化を体験できるなど、国際交流の舞台となった場所ならではのイベントであり、独創性がある。
●ステージでの朗読劇では南島原市平成遣欧少年使節団がローマ教皇謁見報告などを行い、市民の国際交流への関心拡大・郷土の誇り向上にも貢献している。
●イベントを通してイタリアの都市と友好都市締結に発展するなど、新たなつながりを生んでいる。

次回開催日程

■開催日：令和2年12月5日（土）
■開催場所：長崎県南島原市北有馬町丁52番地 南島原市立有馬小学校グラウンド
■問い合わせ先：
・団 体 名　南島原市冬のお祭り実行委員会
・住　　所　〒859-2305 長崎県南島原市北有馬町戊2747番地
・電話番号　090-9587-1762　・URL　http://festivitas.web.fc2.com/

選考委員特別賞

第24回
ふるさとイベント大賞

選考委員会委員長表彰

フェスティビタス ナタリス2019

「フェスティビタス　ナタリス」は、戦国時代の日本とヨーロッパの国際交流・歴史資産を地域資源として、当時のクリスマスを再現したイベントです。イベント名は当時伝えられたラテン語で、「クリスマスのお祭り」を意味しています。

織田信長が天下を統一しようとしていた1580年、長崎県島原半島には南蛮船が来航し、キリスト教と共に多くのヨーロッパ文化が渡来しました。当時の島原半島には日本初の神学校「有馬のセミナリヨ」が創立され、日本初のヨーロッパ派遣団「天正遣欧少年使節」の4人もセミナリヨの第一期生としてルネサンス期の最先端の学問を学びました。その後の江戸幕府のキリシタン弾圧、島原・天草一揆により当時の記録は日本国内に残されていませんが、イタリアやポルトガルの宣教師たちが伝えた報告書から戦国時代の南島原市を舞台としたヨーロッパ諸国との交流の様子が伺えます。こうした戦国時代のヨーロッパとの交流にスポットを当てて始まったのが、フェスティビタス　ナタリスです。

イベント時には、430年前の記録から再現した「南蛮行列」に参加できるとともに、日本人が初めて聞いた西洋音楽を聴き、南蛮料理やワインを楽しむなど、当時の人々が初めて出会ったヨーロッパの文化を体感できます。イベントのシンボルは高さ30㍍、日本最大級のクリスマスツリーで、ツリー沿いの長さ1.6㌔の街路樹171本に施したイルミネーションの道は南島原市の冬の風物詩となっています。

当時の国際交流を体験できる本イベントは、戦国時代に国際交流の舞台となった南島原市ならではの取り組みであり、イベントを通じて市民の国際交流への関心拡大・郷土愛の醸成にも大きく貢献しています。平成30年に「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」がユネスコの世界文化遺産となり、今後さらに国内外から参加者の増加が予想され、交流人口の拡大や知名度向上が期待されます。

主催者メッセージ



戦国時代に南蛮貿易で栄えた長崎県南島原市。ほとんどの日本人が地球が丸いことを知らなかった時代のヨーロッパとの国際交流をテーマにしています。宣教師がローマに伝えた報告書から再現した430年前のキリシタン行列は必見です。立木としては日本一クラスの巨大ツリーと171本、長さ1.6㌔の街路樹のイルミネーションの道も見所です。

南島原市冬のお祭り実行委員会
事務局長
末永 透さん







開催DATA

自治体名	長崎県南島原市
自治体人口	45,259人 ※R1.12末現在の住民基本台帳人口
主催団体	南島原市冬のお祭り実行委員会
開催回数	23回
開催日	令和元年12月7日（土）
開催場所	長崎県南島原市北有馬町丁52番地 南島原市立有馬小学校グラウンド
観客数	5,000人

教育におけるデジタルスキルの向上
― ICT 先進国シンガポールに学ぶ ―

日本は、他国と比べてデジタル活用度が低い。これは、日本でいち早くデジタル活用力を身に付けた人材を育成することができれば、変化の多い社会に対応して地域を活性化できるチャンスになるということだ。そこで、教育の場でどのようにデジタル活用力を育んでいるのかを把握することを目的に、「教育大国」で「ICT 先進国」でもあるシンガポールの現状を調査し、派遣元である青森県深浦町でのデジタル活用に向けた糸口を探った。

デジタル技術に関する日本の現状

電通の海外本社である電通イージス・ネットワークから公表された「デジタル社会指標（ＤＳＩ）」と「デジタルニーズ充足度」によると、日本のデジタル技術はデジタルニーズ充足度において全項目が最下位であり、ＤＳＩは総合評価で24カ国中22位だった。

日本はデジタルスキルの習得が遅れており、その理由はトレーニングを受けたことがないのが原因だと推察されている。そこで、この指標で最上位のシンガポールの特徴をデジタル教育の面から概観する。

シンガポールの教育

シンガポールは、国連のデジタル・ガバメントに関するランキングで常に上位に位置している。そのシンガポールがデジタル化をさらに進めるために取り組んでいるのが、ＩＣＴ教育とＳＴＥＭ教育だ。

【ＩＣＴ教育】

シンガポールでは国がイニシアティブをとり、２００８年から「フューチャースクール@シンガポール」というプログラムを行っている。ＩＣＴの利用環境を整備するときに教授法や実践内容を変革させることを目的としており、フューチャースクールの指定を受けた小学校では子どもたちが各1台のコンピュータを利用できる環境を整備する。

シンガポールではＩＣＴを用いた教育ノウハウが体系化されており、ＩＣＴを積極的に授業に活用することが可能だ。例えば、1人1台のノートパソコン（ＰＣ）を入学時に購入し、数学と母語以外の理科、人文、語学、美術の授業で教材として活用しているほか、タブレットＰＣを使った共同学習によるデジタル・ストーリーテリングなどを実践している。

【ＳＴＥＭ教育】

シンガポールのＳＴＥＭ教育の特徴は「数学」「科学」「物理学」といった縦割りの学習ではなく、これらすべてを融合し、社会での使われ方に即したカテゴリを選んで学ぶことだ。例えば、コンピュータとセンサーを使って心拍を計る授業では、子どもたちはプログラムや電子回路だけでなく、心臓が動く仕組み（生物）、センサーの仕組み（物理）、数値をどう処理するかというアルゴリズム（数学）などを同時に学ぶことができる。また、学習段階を3段階に分けることで生徒のレベルと興味に合った授業を提供している。

このように、シンガポールではＩＣＴ教育とＳＴＥＭ教育に力を入れることでデジタルを有効活用しており、このことが生産性を向上させ、高いビジネス環境を提供し続ける要因となっている。

教育の重要性

今回の調査は、日本のＩＣＴリテラシーの欠如に危機感を抱き、ＩＣＴ先進国であるシンガポールを対象とした。その結果、ＩＣＴリテラシー自体を教育しているわけではなく、ＩＣＴを活用した教育を行うことで自然と身に付いていくことが分かった。

日本においても公教育にツールとして積極的に取り入れるべきであり、その際、世界の最先端諸国では前述のような機能が備わっていることに留意しなければならない。

以上のことから、深浦町としては、教師の職場環境や生活環境の改善と保護者の教育意識の向上による町全体の教育土壌の形成に取り組んでいくことが必要だ。その土壌作りと並行し、国の支援を受けて最新の教育環境を整え、子どもたちが時代に合ったスキルと課題解決能力を身に付けることが望まれる。それにより子ども一人ひとりがより良い人生を送ることができ、ひいてはそれが郷土愛となって地域の活性化につながることを確信する。

元地域活性化センター
副参事 ●兼平 景一

子どもの学びと居場所づくり
― 主体性育むフィンランド式教育 ―

少子高齢化やグローバル化、人工知能（AI）の発達などにより、社会は急速に変化している。教育先進国として世界から注目されるフィンランドでは、こうした変化に対応できるたくましい子どもを育てるための教育を実践している。子どもの学びと居場所づくりについて、行政がなすべきことへの気づきを得るため、現地を訪問して学校や図書館、ユースセンターを視察した。

総合学校の教育

フィンランドの教育システムは、7歳で入学する総合学校の9年間が義務教育となる。総合学校では、7年生までの必修授業で基礎的な知識を身に付け、8、9年生は選択制の授業となる。選択授業では興味のある分野を深く探究できる機会が用意されており、例えば飲食業などに興味があれば、8年生で家庭科を選択して食品管理に関する資格が取得できる。また、社会との関わりも重要視され、3年生はマーケットで商品を売って遠足費用を自ら調達するなど、幼い頃から実践的に社会とつながる機会をつくっている。

公共施設の役割

フィンランドの図書館は、図書館法で「生涯学習、社会参画、民主主義と表現の自由を促進する」と規定され、楽器を演奏できる防音室やゲームを楽しむコーナー、横になってくつろげるスペースなどが設けられている。子どもたちをはじめ、市民の身近な居場所として機能しており、日本の図書館と比較してより開放的で自由な空間になっている。

各自治体に設置されている「ユースセンター」も、29歳までの若者が集う公共施設だ。館内には音楽スタジオや手芸ルーム、体育館などがあり、様々な活動に利用できる。また、専門的なカリキュラムを習得した「コーディネーター」も配置。失業中の若者の再就職を支援したり、家庭内トラブルの相談に乗ったりするなど、若者の社会参加を促進する役割も果たす。

主体性を高める取り組み

このようにフィンランドでは、図書館やユースセンターなどを含む地域全体で子どもたちの主体性を高める取り組みが行われている。学校は子どもたちの主体性を引き出す授業を行い、図書館やユースセンターはそれを実践する「学び・体験・交流の場」として子どもたちに開かれている。それぞれが密に情報交換し、必要な取り組みを連携して行うことで、子どもたちのニーズの把握が容易になる。

また、ユースセンターのように子どもが多く集まる施設では、コーディネーターの役割も大きい。コーディネーターが子どものニーズを把握し、学びの支援・相談役となることで、ユースセンターが子どもたちにとって居心地の良い場所となっている。

元地域活性化センター
副参事 ●齊藤 ゆか


授業の様子


ユースセンターの様子


図書館内　子どもたちが自由に遊べるスペース

移住・定住・交流推進支援事業

（兵庫県丹波市）

強くてやさしい安心社会をめざして

―被災地間共感好流ネットワーク事業―



兵庫県丹波市まちづくり部復興推進室 ● 秋山 晃二

豊かな自然に囲まれたまち

丹波市は、兵庫県の中央東部に位置し、市内西部を南北に日本標準時子午線（東経135度線）が通る中山間地域です。その山々の接点を縫うようにして2大河川の源流が走り、一つは瀬戸内海へ注ぐ加古川とその上流河川、もう一つは日本海へ注ぐ由良川の上流河川となっています。秋から冬にかけて発生する丹波地域の山々を包む朝霧、夕霧は「丹波霧」と呼ばれ、豊かな自然環境に一層の深みと神秘さを醸し出します。

平成16年11月に旧氷上郡6町が合併して誕生しました。当時の人口は約7万3000人でしたが、年々減少して現在では約6万4000人となり、人口減少に伴う多くの地域課題を抱えています。

さらに、人口減少対策が将来にわたって活力ある地域社会を維持・向上していく上で喫緊の課題である中、当市は平成26年8月豪雨により甚大な被害を受けました。

交流から「好流」へ

この災害によって私たちはいろいろなものを失いましたが、代わりに大切なことも気付かせてくれたのではないでしょうか。災害から5年半が経過し、私たちは失ったものをただ嘆くのではなく、残ったものを大切に育てることで次なる災害を軽減し、災害の経験と教訓を活かして人の命や地域社会を守り、明るく住みよい新しい社会の実現に向け、被災、復旧、復興を通して考えたいと思い、「強くてやさしい安心社会をめざして」をテーマに復興イベントを開催しました。

当市は、丹波市豪雨災害からの復興において、新潟県中越地震からの復旧・復興に取り組む長岡市の山古志地域をモデルにしたことから、平成26年に同地域との被災地間交流が始まりました。当市と山古志地域との交流は、多様な主体による継続した定例事業となっています。人の行き来やお米をはじめとする農畜産物の相互購入が盛んになり、昨年には市内に新潟のカップ酒を販売する店も登場しました。

「交流」とは、地域の持っている資源、環境、伝承文化、歴史、触れ合いなどを他地域の人々に提供し、地域振興、地域活性化などを共存共栄の形で実現しようとするものです。地域間で「人」「モノ」「情報」が入り交じることによって、交流に関連した各種産業の発展や地域の活性化が期待できます。「モノ消費」の現在、「共感形成」が最も重要であるといわれていますが、観光客を誘引できる観光資源を持たないまちが、「土地」「食」など地域資源のみで共感を得ることは非常に難しいことです。

しかし、同じ災害境遇を経験した被災地間ではすでに共感形成ができており、地域資源から「体験・実経験」「人・交流」まで融合した価値観を共有することが可能です。当市と山古志地域との被災地間交流は、好ましい流れ（好流）として、これを実証しています。

被災地間の心をつなぐ

災害復興での被災地間交流でヒト、モノ、情報の交流が活発になった山古志地域との成功体験をもとに、さらに仙台市（東日本大震災）、熊本県西原村（熊本地震）を加えて始まったのが、「被災地間共感好流（こうりゅう）ネットワーク事業『心 つなぐ』」です。被災地間ネットワークを設け、パートナー（なじみ）人口の拡大を相互に図るとともに、リピーターを基調とした交流の展開による地域の活性化を進めようとするものです。

令和元年8月18日、丹波市豪雨災害から復興5年の集大成として東日本、中越、熊本からパネリストやグ

ループを招いて「強くてやさしい安心社会」シンポジウムを開催し、パネルディスカッションを行いました。

【平成26年8月丹波市豪雨災害復興5年イベント「和一処（わっしょい）」】

「強くてやさしい安心社会」シンポジウム

・オープニングパフォーマンス：一人芝居「名こそ惜しけれ」

・第1部：基調講演「東日本大震災の被災地における震災伝承の取り組み～災害伝承は未来への種まき～」

・「釜石　あの日あの時　甚句」

・第2部：パネルディスカッション

東日本大震災（仙台市）、熊本地震（熊本県西原村）、中越地震（新潟県山古志地域）、丹波市豪雨災害（兵庫県丹波市）の各被災地で活躍する団体のリーダーがパネリスト

また、会場内に「被災地間共感好流ブース」を設け、それぞれの被災地の災害からの教訓、復興への取り組みなどをパネルや動画で紹介し、人と人との交流が地域の活性化に与える効果などを広く発信できたと感じています。

「災害には顔がある」。これは、一つとして同じ災害はないことを意味します。それなら、丹波だけでなく東日本、熊本、中越からの教訓を総動員し、知恵を絞ることで、次なる災害を軽減し、人の命や地域社会を守り、明るく住みよい新しい社会のあり方を皆さんと考えたい。日常生活における人々の結びつきは、災害時に人の命を救う上で大きな力を発揮するという観点だけでなく、お互いの心配りや助け合いを通じて、普段の生活自体を豊かにする意味でも重要であると思います。

これからの超高齢・人口減少社会での課題は少なくありませんが、そのような課題を解決するための活動を市民、NPO、企業、行政の協働で進めることにより、関わる人たちの活性化、マンパワーの発揮という大きな目的を達成できると考えます。

「復興まちづくり」に人々が参加する。参加した人々は、参加したことで自らを元気にし、仲間をつくり、目的を達成し、生きる喜びを手にすることができる。

これこそがこれからの時代に最も重要なことであり、平時においても思いやり、助け合いのある「強くてやさしい安心社会」を実現する手法だと思います。

この事業を通して、全国各地の被災地で活動するリーダーらが丹波市で一堂に集まり、その取り組みや課題を発信、情報共有し、交流できたことは地域活性化のための大きなヒントになりました。

今後は、商工会、自治会、愛好会、住民グループなど、できるだけ交流者を広げることを展望し、当事業のコンテンツをそれぞれフルに活用し、「歩く」「見る」「触る」「食べる」「聞く」「つながる」など多層的に相互交流事業を実施していきたいと思います。



シンポジウムパネルディスカッション


被災地間共感好流ブース



各地のグループが特産品を出店


被災地間交流イベント

地方創生へ～ウッドスタート宣言　奈良県吉野町

学習指導要領に沿った木育授業
―木のまち吉野、0～15歳の取り組み―



吉野町教育委員会事務局　局長補佐
● 門西　克将

500年の歴史

奈良県の吉野町を含む吉野地域は、約500年前から続く吉野林業発祥の地です。山々は杉やヒノキで覆われており、三重県・尾鷲、静岡県・天竜とともに「日本三大人工美林」と呼ばれています。

吉野林業はもともと樽丸（たるまる）林業と呼ばれ、樽や桶（おけ）の材料としてとても適していたため、この地域の林業発展に大きく寄与しました。「密植・多間伐・長伐期」が特徴で、優良なブランド材として全国的に知られています。

町内には、現在も製材所や木材加工企業が30軒以上集まる「貯木」と呼ばれる地域もあり、木の文化や歴史・産業のある町です。

吉野町は町制60周年を迎えた2016年、町のアイデンティティを改めて見つめ直そうと「ウッドスタート宣言」をし、新たに「木のまち」として「木育」のスタートを切りました。



中学校の「愛・学習机プロジェクト」　地域材の机を組み立て、卒業時に天板を持ち帰る



学年ごとにステップアップしながら道具の扱い方を習得

0～15歳の木育

吉野町教育委員会では、今まで続けてきた木に関わる取り組みや、ウッドスタート宣言後に始めた取り組みをまとめて「0～15歳の木育」としました。地域の人が吉野材で作った木のおもちゃを生まれた赤ちゃんにプレゼントする「ファーストトイ・プレゼント事業」に始まり、こども園での木や森にふれる活動、小学校での「木育授業」、中学校での「愛・学習机プロジェクト」、中・高連携事業の「友灯工房（ともしびこうぼう）」などに取り組んでいます。

小学校の木育授業

2017年度から始まった小学校の木育授業は、新学習指導要領に準拠した内容になっています。図工の時間に全学年、年間1単元ずつ、吉野材を活用したものづくりをします。

指導主事と小学校の教員が、昨年度まで教育委員会所属で地域おこし協力隊員（木育担当）をしていた橋元美穂さんと協働して、授業内容や指導案を作成し、地域の木材会社や木工家の協力で吉野材を使った教材を開発しました。

「ふるさと教育」の一環として取り入れた木育でもあるので、ふるさとへの愛着心を持たせるため、授業導入時には地域の木育インストラクターから吉野の木の特徴や歴史・産業、そこで働く人について話をしてもらっています。

木育インストラクターはこのほか、教材の手配や準備、木工道具や電動糸のこぎりの技術指導なども行っています。教科書に載っている単元で、指導案も作成しているので、人事異動があっても学校の先生が継続して行うことのできる授業となっています。

木と触れ合い、木に学ぶ

木育授業も3年目になり、児童は木や道具の扱いにも慣れ、吉野材に親しみを持ちながら思い思いの作品を作っています。自分たちが育った町の木を使うということ、地域の身近な人が木の育成に関わっていること、そして自然の木の持つ魅力を授業の中で感じているようで、授業時数や学年を重ねるごとに豊かな想像性を発揮し、もっと作ってみたいという思いが生まれています。

吉野町では0～15歳の木育の中で、木と触れ合うことで感性を育み、吉野材の特徴や木の工作の技術を学び、地域への愛着心を持ち、木のある暮らしや環境を考えることのできる、生き抜く力を持った子どもを育てていくことを目指しています。

令和元年度　新たな知と方法を生む土日集中セミナー

人と地域がつながる 農山漁村ツーリズム

～人を呼び込むマーケティング戦略～

地域活性化センターは、「新たな知と方法を生む土日集中セミナー」を開催しています。土日でなければセミナーに参加することが困難な、地域づくりに熱意のある方を対象とし、２０１９年度第13回は２月１日と２日の２日間、「人と地域がつながる農山漁村ツーリズム～人を呼び込むマーケティング戦略～」をテーマに開かれました。

初日の講義

初日の講義はまず、千葉大学大学院園芸学研究科教授の大江靖雄氏に、日本の農山漁村ツーリズムの現状、インバウンド時代の農泊の在り方と行政の関与について説明してもらいました。イタリアのアグリツーリズムと比較しながら日本の特徴と課題を分析され、都市と農村の交流活動を段階的に取り組むことが重要であると強調されました。

続いて株式会社インテージリサーチ公共サービス事業部ソーシャル事業推進部客員研究員の銭谷恭子氏から、難解なマーケティング理論を平易な言葉で身近な例を用いて分かりやすく解説してもらいました。受講者はマーケティング理論を２日目のグループワークにどのように活かせばよいか、具体的なイメージを持つことができました。

内閣官房クールジャパン地域プロデューサーの陳内裕樹氏は、デジタルマーケティング（デジマケ）の重要性について話されました。デジマケは、証拠に基づく政策立案（ＥＢＰＭ）に有用であるが、その活用が不足していることを指摘され、自治体は、組織、人材、予算をはじめとするデジマケ体制を整えることが急務であると喚起されました。

株式会社さとゆめ取締役長野支社長の浅原武志氏には、農山漁村ツーリズムの事例紹介を通じて、ブランディングプロモーションの重要性とその根源にある商品やサービスのストーリー性について話していただきました。

パネルディスカッション

パネルディスカッションでは、当センタークリエイティブ事業室の吉弘拓生室長をコーディネーターとして、受講者が各講義で認識を新たにしたことなどを挙げてもらい、各講師と意見交換を行いました。鋭い質問に講師が驚く場面もありました。

グループワーク

２日目は、浅原氏の指導の下、初日の講義を踏まえて農山漁村ツーリズムの事業計画を立てる訓練を行いました。「参加者が意見を出し合いながらハッピーになれるストーリー作りの手法が大変参考になった」「マーケティングのイメージがだいぶ変わった」といった感想が聞かれるなど、受講者にとって充実したグループワークになったと思います。

◆講師

千葉大学大学院園芸学研究科教授	大江 靖雄 氏
株式会社インテージリサーチ 公共サービス事業部 ソーシャル事業推進部客員研究員	銭谷 恭子 氏
内閣官房クールジャパン 地域プロデューサー	陳内 裕樹 氏
株式会社さとゆめ 取締役長野支社長	浅原 武志 氏

地域活性化センター企画グループ副参事　●田野 祥行（埼玉県庁より派遣）



集合写真


グループワーク


講義の様子

大阪府

百舌鳥・古市古墳群が「人類の宝」に
大阪初の世界遺産が誕生

百舌鳥・古市古墳群世界遺産保存活用会議幹事長
（大阪府府民文化部都市魅力創造局副理事）
● 金森　真澄

登録への道のりとその瞬間

平成22年11月に百舌鳥・古市古墳群が「世界遺産暫定一覧表」に記載されたことを受け、翌年5月に大阪府知事と堺、羽曳野、藤井寺各市の3市長から成る推進体制を発足させて以降、世界遺産登録をめざす取り組みが本格化しました。府民会議や市民の会をはじめ、幅広い支援をいただく中、平成29年7月に4度目の挑戦が実り、国の推薦候補に決定。そして昨年7月6日、アゼルバイジャン共和国の首都バクーで行われた第43回ユネスコ世界遺産委員会で「百舌鳥・古市古墳群－古代日本の墳墓群－」の世界遺産登録が決議されました。

世界遺産委員会の審議会場には、大阪初の世界遺産誕生の瞬間を見守るため、地元自治体の首長らも駆け付けました。府内各所で開催されたパブリックビューイング会場との間をインターネット中継で結び、かねて登録活動に携わってきた地元関係者や多くの市民と喜びを分かち合いました。

百舌鳥・古市古墳群は、大阪府という都市部に所在する遺産です。取り組みを始めた当初は、古墳周辺における都市化の進展が登録の妨げになるのではないかと懸念されましたが、世界遺産委員会の審議では、むしろ市街化が進む中で市民によって古墳が保全されてきたという点が高く評価され、満場一致で登録決議を得ることができました。地元の皆さんの努力が世界に認められたことを誇りに思うとともに、これまでの取り組みに心から敬意を表します。

資産の価値と評価のポイント

世界各地には歴史上、さまざまな墳墓が築かれました。エジプトのピラミッドや秦の始皇帝陵のように世界遺産に登録された巨大な王墓があり、百舌鳥・古市古墳群の中にはこれらと肩を並べる世界最大級の規模を誇る墳墓も含まれています。また、他国では多くの場合、墳墓の墳丘は棺や室に盛土・積石をしただけなのに対し、古墳の墳丘は葬送儀礼の舞台として幾何学的なデザインを施し、埴輪（はにわ）などの土製品で飾り立てており、高い技術力によって築造された土製建造物の傑作と言えます。

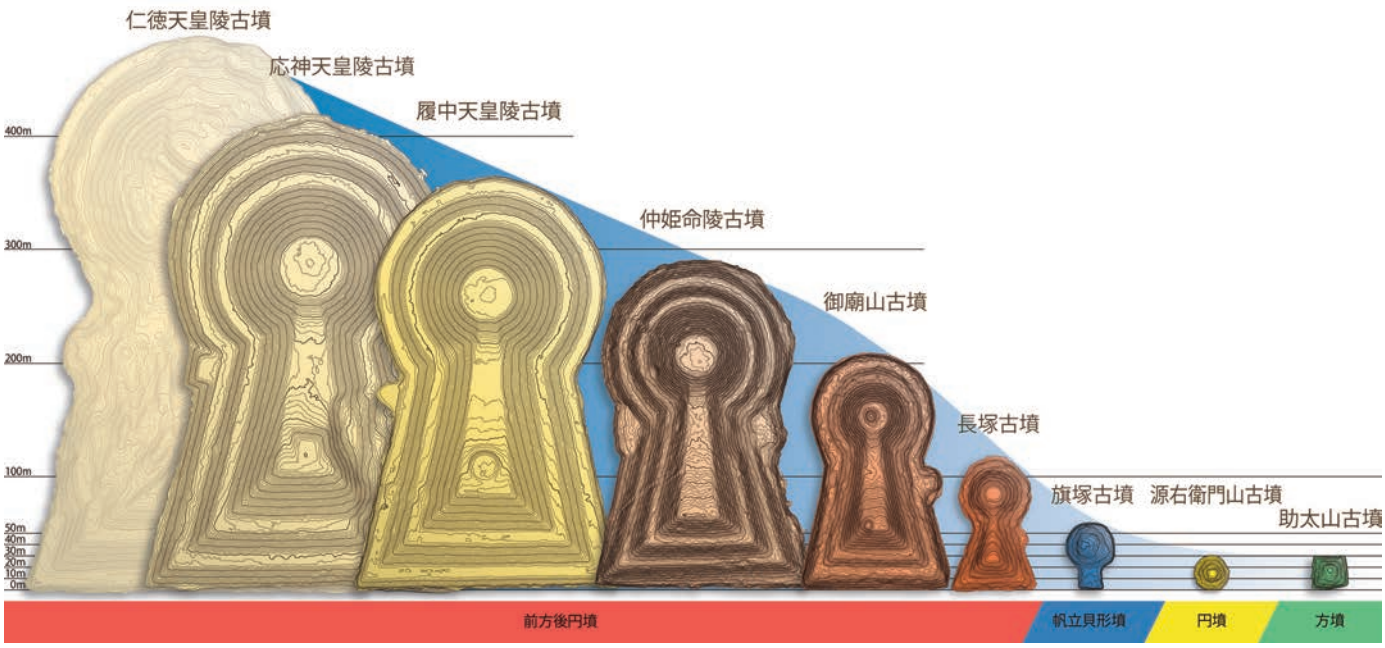
百舌鳥・古市古墳群は、古墳時代の最盛期（4世紀後半～5世紀後半）に築造された、古代日本列島の王たちの墓群で、その構成資産は45件49基にのぼります。当時の政治文化の中心地のひとつであり、大陸に向かう航路の出発点であった大阪平野に位置し、堺市に所在する百舌鳥エリアと、羽曳野、藤井寺両市にまたがる古市エリアに分布しています。

古墳には、鍵穴の形をしている前方後円墳をはじめ、帆立貝形墳、円墳、方墳という4種類の形があり、墳丘の長さは、５００メートル近くに及ぶ仁徳天皇陵古墳から20メートル程度の小規模の古墳までさまざまです。日本列島には16万基以上の古墳があり、各地に無数の古墳群がありますが、有力者の地位や社会秩序、葬送儀礼を通じた社会統治のあり方を表現するものとして、本資産が各地の古墳群のモデルとなったと考えられています。

このような資産の価値に加え、前述の都市との調和が評価され、百舌鳥・古市古墳群は世界遺産一覧表への記載が認められました。

資産を守り将来に伝えるために

世界遺産は後世に守り伝えていくべき人類共通の宝です。そのため、百舌鳥・古市古墳群では、①将来にわたり保存していく②資産の価値を世界の人々に伝えていく③資産の保護と地域社会の発展との調和を図る－といった三つの基本方針を掲げ、資産の保護・管理や緩衝地帯の保全、来訪者への対応などについて、関係者が連携しながら多岐にわたる取り組みを進めています。



構成資産の多様な墳形と規模

百舌鳥・古市古墳群の構成資産については、国有財産法や文化財保護法などに基づき、保存管理が行われています。百舌鳥エリア・古市エリアは共に市街化が進展した地域であることから、資産周辺に緩衝地帯を設定し、都市計画法や景観法などに基づき、建築物の高さやデザイン、屋外広告物に対する制限を行い、古墳と調和した街並みの形成に取り組んでいます。また、世界遺産登録後は来訪者の増加が見込まれることから、来訪者の周遊が住民生活と共存できるよう、特に留意していく必要があります。



百舌鳥エリア全景



古市エリア全景

百舌鳥・古市古墳群への理解を深めてもらうことは、資産を大切に守ろうという意識の醸成につながります。地域の誇りとして古墳群を継承してきた地元の皆さんに加え、より多くの方々に百舌鳥・古市古墳群の良き理解者、心強いサポーターになってもらうための取り組みを進め、将来に向けて着実に資産を引き継いでいきたいと考えています。

インタビュー

元地方局アナが地方創生を応援



Cheering社長
長崎 真友子氏

「地方創生」の総合戦略が始まって５年が経過した。九州朝日放送（KBC）の元アナウンサー長崎真友子さん（34）は地方の魅力を発信しようと、地方局出身のアナウンサー仲間と共に「女子アナ 47」を結成。その運営会社である「Cheering」（東京）の社長として地方創生に取り組む自治体や企業の PR などを支援している。

●プロフィール　長崎真友子（ながさき・まゆこ）　1986 年生まれ、福岡県古賀市出身。2008 年北九州市立大外国語学部卒業後、KBC 入社。2011 年同社を退社しフリーに。2015 年 Cheering を起業。

自ら発信できる人材育成を

―どんな活動をしているのか。

地方局出身のアナウンサーに特化してさまざまなプロジェクトを生み出している。登録メンバーにイベントの司会や話し方講座の講師などを仲介するとともに、企画も行っている。羽田空港で物産展を開いた「羽田マルシェ」という催しには立ち上げから関わった。参加自治体や企業を募り、ステージイベントはネット中継もした。

―この会社の強みは。

女子アナ47には約70人が登録している。東京だけでなく地方在住者もいるので、それぞれが地元のことを知った上で双方向の情報発信ができる。そこは大手の芸能事務所と異なるところで強みだ。Cheeringという社名は、47都道府県の地方創生を応援したいという意味が込められている。

―起業のきっかけは。

もともと学生時代から地域を盛り上げようとブログで情報発信していた。局アナ時代も福岡県内各地を取材、紹介してきたが、全国に伝えるのは難しいことを痛感した。退職後、上京すると周囲のアナウンサー仲間たちも「地方と全国をつなぐ仕事がしたい」という思いを持っていることが分かり、起業してみようと思った。

―最近、力を入れていることは。

自治体と地域をPRする動画を作っている。私たちはリポート技術はもちろん、撮影や編集についても一通りのことは身に付いている。これを職員に伝授することでコストも抑えられるし、自ら情報発信できる人材が育っていくはずだ。

―4月から地方創生は第2期が始まったが。

地方創生第1期の5年間は地方の自治体や企業の広告や動画は「バズる（インターネット上で流行する）」ことばかりが目的になっていなかったかと感じる。「東京一極集中」と言われる中で、若者に地方に来てもらうには単に知ってもらうだけではだめだ。これからは「行きたい」「住んでみたい」と思わせる工夫や仕掛けが必要だろう。

―具体的にどうすればいいのか。

その土地に行ってみたいという動機付けが必要だ。例えば通勤ラッシュから解放された働き方や、自然豊かな環境での子育てといったライフスタイルをSNS（インターネット交流サイト）で紹介。同じ画面から現地生活の体験ツアーに申し込めるような仕組みにすれば、これまで移住なんて考えもしなかった若者にもアプローチできるのではないか。

―会社の今後は。

KBCの先輩である高島宗一郎福岡市長から「アナウンサーという手段を使って多くの人に役立つものをやるべきだ」というアドバイスをもらった。私は2児の母なので、世のママに役立つような親子向けスピーチ教室やフリーランス女性のための事業もやっていきたい。

（聞き手：時事通信社内政部　斉藤 大）

首長の思い
column



地域主体のまちづくり

石川県七尾市長　不嶋　豊和

石川県七尾市は能登半島の中ほどに位置し、天然の良港「七尾港」や七尾湾に抱かれた豊かな「里山里海」、開湯1200年を誇る名湯「和倉温泉」、国指定史跡「七尾城跡」を有するなど、古くから能登の政治・経済・文化の中心地として栄え、固有の文化を育んできました。

また、世界農業遺産に認定された「能登の里山里海」から派生する伝統的な祭礼文化が市内各地に残り、子どもからお年寄りまでが役割を分担し、協力し合いながら今も守り続けています。

しかし、近年の少子高齢化や人口減少の急速な進行により、平成16年に1市3町が合併して誕生した当市の人口は、現在約5万2000人となり、15年余りで1万1000人減少しました。

一部の地域では、祭礼の担い手不足や行事の休止、町内会の維持困難など大きな課題が浮き彫りとなり、このままでは市内全体の活力の低下につながると危惧し、各地域の活性化が急務であることを強く実感しました。

そこで、平成24年に「七尾市まちづくり基本条例」を制定し、まちづくりの担い手である市民、議会、そして行政が協働してそれぞれの役割を果たすことで、人と人が絆を深めながら、人と自然、地域と地域が結び合う豊かな七尾市の実現を目指すこととしました。

地域の課題は多種多様であり、行政の画一的な施策ではなく、住民自らが主体となって考え、決定し、行動しながら、地域独自の解決を図ることが、真の意味での地域づくりの姿ではないかと考えます。

そのため、住民がより柔軟な発想で、より迅速に取り組めるよう、既存の公民館組織を廃止し、公民館が担っていた社会教育活動に、地域福祉や地域防災を加えて活動する新たな地域運営組織として「地域づくり協議会」が市内全15地区に設立されました。

財政的支援としては、「地域づくり推進基金」を設立し、4年間で3億円の予算を組み、円滑に活動できる資金源を確保するとともに、これまでの補助金を整理し、地域づくり協議会が地域課題の解決や地域の特色を生かしたまちづくりなどの事業に対し、その資金を柔軟に使えるよう「地域コミュニティ交付金」として一括交付するようにしました。

また、地域づくり協議会が試しにやってみたい事業や、これまで市が担っていた歩道除雪に対する除雪機購入の補助など市との協働事業についても新たな補助金制度を設け、チャレンジできるような事業展開も図ってきました。

地域づくり協議会の活動拠点の確保として、公民館をコミュニティセンターに改め、市民活動はもちろん、企業などにも開放し、様々な活動ができる体制を整えました。

また、これまで直営施設だったコミュニティセンターは、各地域づくり協議会が指定管理者として管理・運営するとともに、その事務局を担う職員も市の雇用から地域で雇用する形へと変更しました。これらのことにより、コミュニティセンターを活動拠点として、地域主体のまちづくりが、より一層促進されるものと大きく期待しております。

昨年度、能登島地域づくり協議会が「ふるさとづくり大賞総務大臣表彰」と「優良公民館文部科学大臣表彰」を、たかしな地区活性化協議会が「地域再生大賞優秀賞」を受賞しました。能登島地区は島の特性を生かした体験メニューや新商品の開発が、高階地区は空き家を活用した移住対策が高く評価されたものです。

今回の受賞は、地域づくり協議会を立ち上げてから数年が経過し、各地区の特色ある取り組みが、ようやく実を結び始めてきたと実感できるものです。他の地区でも地域課題の解決に向けた自主的な取り組みが徐々に広がりつつあり、さらに成果ある取り組みにつながるよう、引き続き必要な支援を行います。

今後も、地域の様々な課題解決や地域コミュニティの活性化に向けて、住民と行政がそれぞれの立場を理解しながら協力・連携を深め、自立したまちづくりを支援してまいります。


JAグループ佐賀　“さが”農産物ブランド確立対策推進協議会　http://gochiso-saga.com/
最上肉質
5等級と、
ご注文下さい。
艶さし、プレミアム
佐賀牛®
さがぎゅう
the premium SAGA kurogewagyu
格付5、4等級　BMS7以上

手前みそですが…

京都府

木津川市 255

歴史文化と最先端技術が融合するまち 木津川市



■夜明けの木津川
市の中央を流れる木津川は、かつて泉川とも呼ばれ、中納言兼輔が詠んだ和歌「みかの原わきて流るる泉川　いつ見きとてか恋しかるらむ」は百人一首にも登場します

木津川市は、近畿地方のほぼ中央、京都府最南端に位置し、京都、大阪、奈良にほど近く、奈良時代に首都である「恭仁京」が置かれた地であったこともあり、多くの国指定文化財を有しています。

また、豊かな歴史・自然環境に恵まれ、木津川をはじめ里山、恭仁宮跡、茶畑が広がる地域があるほか、明治時代に120もの茶問屋が軒を連ねていた上狛南部地域には、現在もお茶の香りが漂う上狛茶問屋街があります。

さらに、関西文化学術研究都市の中核を担う都市としても発展しており、量子科学技術研究開発機構関西光科学研究所は、「光」をキーワードとする最先端の研究とイノベーションに向けた産業・医療応用研究の中核拠点を担うなど、市内には多くの研究所や企業が立地しています。



■上狛茶問屋街
約 30 軒の茶問屋が並ぶストリート。ほんのり漂うお茶の香りを楽しみながら、昔ながらの街並みを望むことができます



■きっづ光科学館ふぉとん
「光」をテーマにした日本初の科学館。展示や映像、実験、工作を通して光の基本的な性質から最先端の利用技術まで楽しく学ぶことができます



■餅花
花に見たてた餅を奉納し豊作を祈願する祭りです。 餅をつけた竹串が飾られた社殿で、４人の宮守衆が奏でる鉦や太鼓の音が響く中、巫女が神楽を舞います



■木津川アート
古民家をはじめ、市内の様々な空間に現代アート作品を展示する芸術祭。今年は、恭仁宮が置かれていた瓶原地域で 11 月に開催されます



■浄瑠璃寺（九体寺）
日本で唯一、現存する九体阿弥陀仏を祀る本堂は、国宝に指定されています。また、寺の庭園は極楽浄土の世界を再現した浄土庭園と呼ばれています



■山城町森林公園（レストヴィレッジ山城）
のんびり川のせせらぎを聞きながら、緑豊かな自然に触れることができます。小川でサワガニを見つけたり、バーベキューやキャンプをしたり楽しく過ごせます



■クローバー牧場の特別牛乳
日本に４カ所しかない、「特別牛乳」の製造許可を受けている牧場で、生に近い生産方法により処理した牛乳を販売しています

地域づくり５月号

2020 年 5 月 1 日発行　編集・発行＝一般財団法人地域活性化センター
東京都中央区日本橋2-3-4 日本橋プラザビル 13 階 電話03-5202-6131(代)
https://www.jcrd.jp/　印刷・製本／株式会社太平印刷社

法律で許可された場合以外に本誌からの無断転載を禁止します
落丁・乱丁はお取り替えします。編集室（03-5202-6139）E-mail：hensyuu6139@jcrd.jp まで、ご連絡下さい。

地域活性化センターからのメールマガジン登録はこちら

地域づくり5月号（通巻371号）令和2年5月1日　一般財団法人　地域活性化センター発行

宝くじは、
みなさまの豊かな暮らしに
役立っています。



宝くじは、図書館や動物園、学校や公園の整備をはじめ、
少子高齢化対策や災害に強い街づくりまで、さまざまなかたちで、
みなさまの豊かな暮らしに役立っています。

一般財団法人 日本宝くじ協会は、宝くじに関する調査研究や
公益法人等が行う社会に貢献する事業への助成を行っています。

一般財団法人
日本宝くじ協会
http://jla-takarakuji.or.jp/

2020
5
ISSN 1340-8917



令和元年度 ふるさとイベント大賞

地域づくり 特集編

目 次

大賞（内閣総理大臣賞）	表2	地獄の谷の鬼花火【北海道登別市】
最優秀賞（総務大臣表彰）	2	よさこい祭り【高知県高知市】
優秀賞	4	能登小木港イカす会2019【石川県能登町】
	5	RENEW【福井県鯖江市】
	6	柳川雛祭り さげもんめぐり【福岡県柳川市】
ふるさとキラリ賞	7	狐の夜祭り【新潟県柏崎市】
	8	Humanoise Project（農村舞台音楽公演）【徳島県那賀町】
選考委員特別賞	9	フェスティビタス ナタリス2019【長崎県南島原市】

次点（24団体）

10 荒馬まつり【青森県今別町】
11 第16回川俣シャモまつりin川俣【福島県川俣町】
12 あるけあるけ初日詣大会【福島県浪江町】
13 かさま新栗まつり【茨城県笠間市】
14 国分川鯉のぼりフェスティバル【千葉県市川市】
15 スミファ（すみだファクトリーめぐり）【東京都墨田区】
16 奈良田盆踊り復活祭【山梨県早川町】
17 第5回ウエルカム三才児まつりinスポーツパーク【長野県長野市】
18 三嶋大祭り【静岡県三島市】
19 第12回 やらまいか ミュージックフェスティバルin はままつ【静岡県浜松市】
20 夜桜と竹灯篭宵まつり【愛知県東浦町】
21 額田のダシまつり【京都府福知山市】
22 みかた残酷マラソン全国大会【兵庫県美方郡香美町】
23 サンタ×三田プロジェクト【兵庫県三田市】
24 ススキ提灯献灯行事及び大神輿渡御【奈良県御所市】
25 能登原とんど【広島県福山市】
26 うだつマルシェ【徳島県三好市】
27 俳句甲子園 全国高等学校俳句選手権大会【愛媛県松山市】
28 ダルメイン 世界マーマレードアワード＆フェスティバル日本大会【愛媛県八幡浜市】
29 山師達人選手権大会【高知県馬路村】
30 伊万里大川内山 ボシ灯ろうまつり【佐賀県伊万里市】
31 由布院牛喰い絶叫大会【大分県由布市】
32 いぶすき菜の花マラソン大会【鹿児島県指宿市】
33 伊平屋ムーンライトマラソン【沖縄県伊平屋村】

2020年5月1日発行　編集・発行＝一般財団法人地域活性化センター　©2019 jcrd.jp
東京都中央区日本橋2-3-4 日本橋プラザビル13階 電話03-5202-6131（代）https://www.jcrd.jp/　印刷・製本／株式会社太平印刷社

本誌は、宝くじの社会貢献広報事業として助成を受け作成されたものです



評価のポイント

●湯の守り神「湯鬼神」による伝説の一つとして催されており、北海道遺産にも選定されている登別地獄谷を舞台としている。
●湯鬼神たちが放つ、噴火のような8㍍もの花火に人々は魅了され、温泉郷である登別のPRの一躍を担っている。
●温泉郷ならではのイベントで、近年増加するインバウンドの旅行形態に着目している。
●宿泊客数の増加に伴う温泉街のホテルや旅館など経済効果が大きく、温泉地の活性化を担っている。
●回数を重ねるごとに観客数も増加している。

次回開催日程

■開催日：令和2年6月1日（月）～ 7月31日（金）（毎週木曜日、金曜日）
■開催場所：登別地獄谷展望台周辺
■問い合わせ先：
・団 体 名　一般社団法人登別国際観光コンベンション協会
・住　　所　〒059-0551 北海道登別市登別温泉町60番地
・電話番号　0143-84-3311　・URL　http://www.noboribetsu-spa.jp/

大賞

第24回
ふるさとイベント大賞

内閣総理大臣賞

地獄の谷の鬼花火







登別温泉は、自然湧出量が1日1万トンを誇る豊富な湯量と、世界的にも珍しい9種類もの泉質が湧出していることから「温泉のデパート」と呼ばれています。北海道遺産である「登別地獄谷」や「大湯沼」のほか、近年は大湯沼川から流れ出る「天然の足湯」が人気を博し、北海道を代表する観光地として近年では年間400万人近い観光客が訪れています。

「地獄の谷の鬼花火」は、平成12年の有珠山噴火により観光客数が減少していたことや、旅館・ホテル完結型の観光形態により商店街の活気が失われていたことに危機感を抱いた協会関係者や地元の若者が中心となり、登別温泉の新たな魅力づくりを目的に平成18年から始まりました。登別地獄谷を舞台に、毎年6、7月の毎週木曜日と金曜日の午後8時30分から実施しています。

人々の幸せを願い、厄を持ち去るために登別地獄谷にすむ湯の護り神「湯鬼神」たちが、銅鑼や太鼓の音とともに舞台へと登場します。そして、人々の厄を集めるための舞を踊り、銅鑼の音に合わせながら8メートルもの火柱が上がる手筒花火を夜空に放ちます。イベントを締めくくる6本打ちは、火柱の勢いと響き渡る銅鑼や太鼓の音が地獄谷に響き渡り、噴火にも似た迫力のある演出が多くの観光客を魅了します。

イベント終了後には、湯鬼神たちとの記念撮影が行われるなど観光客との交流が図られています。このイベントは、旅館やホテルにとどまりがちだった観光客を外へと誘い出し、終了後は多くのお客様が商店街を周遊するなど地域の活性化に大きく寄与しました。また、演者・警備・交通整理などの運営は、登別の街づくりを担う市民団体「元鬼協議会」、登別市職員、企業関係者など市内各地域から集まる多くのボランティアが担っており、地元住民の郷土意識高揚にも貢献しています。

主催者メッセージ



第24回ふるさとイベント大賞にて、栄えある大賞をいただき誠にありがとうございます。何よりうれしいのは「地獄の谷の鬼花火」をボランティアで支えてくれるスタッフの努力が報われたことだと思います。この受賞を励みとして全国に誇れる地域イベントとして育てていく決意です。皆さんのご来泉をお待ちしています。

（一社）登別国際観光
コンベンション協会 係長
中平 將さん

開催DATA

自治体名	北海道登別市
自治体人口	47,675人 ※R1.12末現在の住民基本台帳人口
主催団体	（一社）登別国際観光コンベンション協会、登別市
開催回数	14回
開催日	6月1日～7月31日（毎週木曜日、金曜日）
開催場所	登別地獄谷展望台周辺
観客数	30,000人







評価のポイント

●戦後の不況を吹き飛ばし、市民の健康と繁栄を祈願し、併せて夏枯れの商店街振興を促すための祭り。
●祭りのためにつくられた土佐伝統の「よさこい鳴子踊り」の曲調に乗って、個性豊かにアレンジされて踊る。
●全国および世界で開催されており、祭り開催地の地域振興への寄与とよさこいを通してつながり、絆の醸成への貢献度が高い。
●経済効果は96億円にも上る。
●小中高校の運動会に踊りを取り入れたり、運営体制を考える検討会を開催したり、よさこい祭りを未来へつなげていくための取り組みが行われている。

次回開催日程

■開催日：令和2年8月9日（日）～ 13日（木）
■開催場所：高知市内
■問い合わせ先：
・団 体 名　よさこい祭振興会
・住　　所　〒780-0870 高知県高知市本町1-6-24高知商工会議所内
・電話番号　088-875-1178　・URL　http://www.cciweb.or.jp/kochi/yosakoiweb

最優秀賞

第24回
ふるさとイベント大賞
総務大臣表彰

よさこい祭り





土佐の夏を彩る本家・高知の「よさこい祭り」は、毎年8月9日の前夜祭を皮切りに、10、11日の本番、12日の全国大会・後夜祭と4日にわたり開催されます。

土佐わらべ歌などをヒントに作曲された「よさこい鳴子踊り」の楽曲にて、鳴子を鳴らしながら街頭で踊ります。趣向を凝らした地方車、オリジナルの楽曲、きらびやかな衣装、鳴子を活かした振り付け、踊り子の熱い情熱とはじける笑顔は見る者の心を動かします。

よさこい祭りは、高知商工会議所の発案により昭和29年に戦災と昭和の南海地震からの復興、市民の健康と繁栄、そして商店街の振興を目的として21チーム、750人の踊り子で始まりました。令和元年で66回目を数え、国内外から参加した約200チーム、1万8000人を超える踊り子が市内16カ所の会場を“よさこい一色”に染め上げました。各競技場、演舞場は地域の商店街や町内会などが主体となって運営しており、踊り子として地元の学生や企業チームが参加するなど、地域が一体となるお祭りになっています。

また、よさこい鳴子踊りに魅せられた北海道の学生らが平成4年に始めた「YOSAKOIソーラン祭り」の成功により、各地で鳴子を持ったお祭りが数多く生まれ、時代とともに進化してきました。今では国内200カ所以上で、そして海外でも29の国や地域でよさこいは踊られています。よさこいが各地に広まった大きな要因は枠にとらわれない「自由な踊り」であるからです。自由な発想が踊りを躍動的にさせ、多様性に富ませ、その熱気や活気が見る人を感動させています。

時代や土地柄によって変わっていく“よさこい”は、各地で芽生え、根付き、文化を創造し、街おこしにつながっている素晴らしいお祭りであり、今や春夏秋冬、一年を通して日本はもとより世界のどこかで鳴子が鳴り響いています。

主催者メッセージ



日本のみならず世界中で愛される「よさこい」。その聖地として、南国土佐のよさこい祭りには国内外の約200チーム、1万8000人を超える踊り子が、商店街を中心とした市内16カ所の競演場や演舞場で鳴子を鳴らして舞い踊ります。お目当てのチームを追っかけたり、たくさんの会場を見比べたりするのも高知よさこいの魅力です。

よさこい祭振興会会長
（高知商工会議所会頭）
青木 章泰さん

開催DATA

自治体名	高知県高知市
自治体人口	327,751人 ※R1.12末現在の住民基本台帳人口
主催団体	よさこい祭振興会
開催回数	65回
開催日	平成30年8月9日（木）～12日（日） ※毎年 8月9日～12日
開催場所	高知市内
観客数	約110万人

優秀賞

第24回
ふるさとイベント大賞

能登小木港 イカす会 2019

石川県能登町小木地区は人口約2000人の小さな港町ですが、日本有数の沖合イカ釣漁の漁獲量を誇り、「イカのまち小木」として知られてきました。しかし、近年は漁業者、漁船、水揚高が減少し、人口減少・高齢化も進行しています。平成21年には県立水産高校小木分校が閉校し、さらに昭和63年から続く地域産業イベント「イカす会」の開催も途絶えるなど、まちのにぎわいが失われつつありました。

「このまま傍観していてはいけない」と、平成25年に小木地区の若者を中心とした有志が集まり、「笑顔があふれるイカのまち小木」を目指して能登小木港スマイルプロジェクトを結成。AKB48の「恋するフォーチュンクッキー」のダンス動画を作成し小木地区の一体感を高めたり、手作りで小規模の「ミニミニイカす会」を開催したりと、イカす会復活の準備を進めてきました。これらの活動により、平成26年に「能登小木港イカす会」としてイベントを復活させることができました。

能登小木港イカす会は、「少しクレイジーで凄くおいしい、イカの祭。」のキャッチコピーの通り、イカを見て、触れて、知って、食べることができるイカづくしの体験型イベントです。

イベント当日の小木港には出港を控えたイカ釣漁船が大漁旗を掲げてズラリと並び、地域住民と来場者が漁業者の航海の安全と大漁を祈願します。会場では、①石川県漁業調査船「白山丸」に乗船し沖に出るイカ釣漁業体験航海②漁師さんが案内するイカ釣漁船見学③活イカのつかみどりや一本釣り―などが開催されるほか、海産物の炭火焼コーナーや模擬店が並びます。また地元小木小学校と連携し、白山丸漁業体験、漁船見学や授業の成果発表を行うなど、探究心を育む海洋教育「里海科」の授業の場にもなっています。これらの創意工夫により一度は途絶えたイカす会は、県内外から多くの人が訪れるイベントとなり、2019年には来場者が過去最高の1万1000人を記録しました。











次回開催日程

■開 催 日：未定（新型コロナウイルスの感染拡大により5月31日の開催を中止）

■問い合わせ先：

・団体名
能登小木港スマイルプロジェクト

・住所
〒927-0553 石川県鳳珠郡能登町小木15-30-1 小木公民館内

・電話番号：0768-74-0194

・MAIL：https://www.facebook.com/noto.ogi.smile/

開催DATA

自治体名	石川県能登町
自治体人口	17,011人 ※R1.12末現在の住民基本台帳人口
主催団体	能登小木港スマイルプロジェクト
開催回数	6回
開催日	令和元年5月26日（日）
開催場所	石川県漁業協同組合小木支所（石川県鳳珠郡能登町小木地内）
観客数	11,000人

優秀賞

第24回 ふるさとイベント大賞

RENEW



福井県丹南エリア（鯖江市、越前市、越前町）は、半径10㌔圏内に漆器、和紙、打刃物、タンス、焼き物、メガネ、繊維の7産業が集積するものづくりのまちです。この丹南エリア全域で年に1度開催されるRENEWは、工房を開放し、職人との会話や交流を通じてものづくりに親しんでもらう体感型マーケットです。来場者は、実際の工房・企業を巡り、工房見学やワークショップを楽しみながら、どんな職人が、どんな場所で、どんな思いで、どんな技術でものづくりをしているか知ることができます。

RENEWは、産地全体のブランド力に欠けること、顧客目線での商品開発ができていないことを危惧した鯖江市河和田地区の地場産業の担い手たちが、「持続可能な産地をつくろう」と始めたイベントです。立ち上げ当時、二つの目標を掲げました。一つ目は、消費者に産地に訪れてもらい、産地のファンになってもらうこと、二つ目は職人が実際の消費者に触れるきっかけをつくり、顧客ニーズをくみ取るとともに、ものづくりの誇りを取り戻すことです。これらを達成するため、RENEWでは2015年より、民間主導で7産業の産地間ネットワークを形成し、工房開放を通じて、職人に触れ、ものづくりの背景を知る機会を提供してきました。 また、伝統工芸、食、IT、防災など幅広い分野で活躍する全国の団体が集うマーケット「まち／ひと／しごと」を開催し、産地の職人が最先端の取り組みや情報を得られる仕組みを構築しました。さらに、若い人々が継続的に産地に集う仕組みをつくるため、先輩移住者によるトークセッション「移住EXPO」も開催しました。

2015年からの4年間で開催地域内には新規・改装を含めて13のファクトリーショップがオープンし、RENEWをきっかけに丹南エリアへの移住者も現れました。また、ロゴやWEBサイト制作、新規商品開発などに着手した工房も見られるなど、丹南エリアの地場産業活性化につながっています。









次回開催日程

■開 催 日：令和2年10月9日（金）～ 11日（日）
■開催場所：鯖江市・越前市・越前町全域（総合案内所：うるしの里会館）
■問い合わせ先：
・団体名
RENEW実行委員会
・住所
〒916-1222 福井県鯖江市河和田町19-1-7（PARK内）
・電話番号：080-7850-5336
・URL：https://renew-fukui.com/

開催DATA

自治体名	福井県鯖江市
自治体人口	69,299人 ※R1.11.1現在の住民基本台帳人口
主催団体	RENEW実行委員会
開催回数	4回
開催日	平成30年10月19日（金）～ 21日（日） ※例年10月の半ばの週末を含む3日間または4日間
開催場所	鯖江市・越前市・越前町全域 （総合案内所：うるしの里会館）
観客数	延べ3.8万人

優秀賞

第24回
ふるさとイベント大賞

柳川雛祭り さげもんめぐり

柳川市では、昔から女の子が生まれると、初節句の際にひな壇の周りに色とりどりの「さげもん」を飾り、盛大に祝うのが習わしです。「さげもん」は江戸時代に起源を持つとされ、縁起の良い鶴やウサギ、ひよこ、這い人形などの布細工とともに、鮮やかな糸で巻き上げた「柳川まり」を組み合わせた飾り付けで、一つ一つに「幸福」や「健康」など、子どもに対する母親や祖母らの願いが込められています。この色鮮やかで心温まる雰囲気の「柳川雛祭り」の伝統を継承していくとともに、新たな観光の目玉とするため、観光施設や店舗などに飾り付けし、柳川の家庭の慣習を公開したことが「柳川雛祭り さげもんめぐり」の始まりです。

祭り期間中は、観光施設や宿泊施設、飲食店、古民家など市内約34カ所の「さげもん処（展示会場）」を設け、彩り豊かな飾り付けを鑑賞しながら街歩きを楽しんでいただけます。また、水郷柳川の観光名物である城下町の掘割での川下りを活用した「おひな様水上パレード」や「おひな様始祭」「きもの日和」など毎週末に様々なイベントを開催しています。今では、柳川の春の風物詩として認知され、国内外から大勢の観光客に訪れていただき、市民が“おもてなしの心”を持ってお迎えしています。

「柳川雛祭り　さげもんめぐり」は平成7年から始まり今年で第26回を迎え、「おもてなしの心 日本一！」を目指す柳川市を代表するイベントとなっています。交流人口の増加と柳川の認知度向上のみならず、地域住民の郷土意識の高揚や伝統文化の継承にも大きく寄与しており、地域活性化につながっています。













次回開催日程

■開 催 日：令和3年2月11日（木）～
4月3日（土）（プレオープン1月24日予定）
■開催場所：柳川市内 一帯
■問い合わせ先：
・団体名
柳川雛祭り実行委員会
（一般社団法人柳川市観光協会 内）
・住所
〒832-006 福岡県柳川市沖端町35
・電話番号：0944-73-2145
・URL：http://www.yanagawa-net.com

開催DATA

自治体名	福岡県柳川市
自治体人口	65,677人 ※R1.12末現在の住民基本台帳人口
主催団体	柳川雛祭り実行委員会
開催回数	25回
開催日	平成31年2月11日（月）～4月3日（水）
開催場所	柳川市内一帯
観客数	約13万人

ふるさとキラリ賞

第24回
ふるさとイベント大賞
選考委員会表彰

狐の夜祭り



昭和63年、過疎が進む新潟県柏崎市高柳地域の活性化を模索していた地元の若者たちが、富山県利賀村（現・南砺市）で狐（きつね）の絵を描く画家の故・古川通泰氏と出会い、平成元年に古川氏の協力を得て大作の狐の絵をはさ木に掛けて飾ったのが「狐の夜祭り」の始まりです。その後、年々アイデアを加えて、「藤五郎狐」という地元の民話が伝わる栃ヶ原集落と麓の漆島集落を結んで「狐の提灯行列」を行う現在の姿になっています。

祭りで使用する提灯やお面、大鍋のほか、地元の盆踊りをアレンジした狐の踊りも全て手作りで、実行委員会メンバーだけでなく地元の中学生もボランティアで参加するなど、地域一体となって運営しています。



イベントのメインとなる提灯行列では、狐のお面と白装束に身を包んだ「100匹の狐」が、提灯を片手に栃ヶ原集落から畳1枚ほどの大油揚げを担いで暗闇の道を漆島集落まで行進します。キャッチフレーズである“歩いた人からきつねの気分”のとおり、山々に響く笛の音と連なる100個余りのロウソクの灯りが参加者を幽玄の世界に誘います。神楽や和太鼓を見ながら、大油揚げの振る舞いや地元のキノコ汁など秋の味覚も楽しめるイベントになっています。

また、幻想的な狐の行列や大きな油揚げづくりなど、写真に映えるイベントということもあり、多くの方が写真を撮影し情報発信することで知名度も着実に上昇しています。

舞台の一つとなる栃ヶ原集落は25世帯で高齢化率100%と人口減少が進む地域ですが、狐の夜祭りを目的として集落の人口を超える観光客が県内外から集まることにより、地域住民の自信や活力を生み出しています。







次回開催日程

■開 催 日：令和2年10月11日（日）予定
■開催場所：新潟県柏崎市高柳町栃ヶ原地区及び漆島地区
■問い合わせ先：
・団体名
狐の夜祭り実行委員会（柏崎市高柳町事務所）
・住所
〒945-1502 新潟県柏崎市高柳町岡野町1849-1
・電話番号：0257-41-2233
・URL：takayanagi@city.kashiwazaki.lg.jp

開催DATA

自治体名	新潟県柏崎市
自治体人口	1,286人 ※R1.12末現在の住民基本台帳人口
主催団体	狐の夜祭り実行委員会
開催回数	30回
開催日	平成30年10月14日（日） ※10月第二日曜日
開催場所	新潟県柏崎市高柳町栃ヶ原地区 および漆島地区
観客数	3,000人

ふるさとキラリ賞

第24回 ふるさとイベント大賞
選考委員会表彰

Humanoise Project（農村舞台音楽公演）

中山間地域である徳島県那賀町は、全国にある人形浄瑠璃用農村舞台の約4割（約40棟）が現存するなど、昔から人形浄瑠璃をはじめとする芸能が盛んな地域です。しかし、過疎・高齢化が進み、産業をはじめ様々な伝統文化活動においても後継者不足が深刻な状況となっています。

平成21年、那賀町の伝統文化を絶やしたくないという思いから、地元青年団が中心となり人形浄瑠璃の一座「丹生谷清流座」を結成し、農村舞台公演として人形浄瑠璃を行ってきました。しかし、地域の宝である農村舞台の活用は、人形浄瑠璃の定期公演の開催など6カ所にとどまっていました。

県や町などの行政機関とも連携し、人形浄瑠璃以外の新たな農村舞台の活用方法を模索していたところ、県出身の音楽家である住友紀人氏との出会いから音楽イベントの企画が持ち上がり、平成23年に「Humanoise Project農村舞台音楽公演」が始動しました。

同イベントは、杜の中にたたずむ「八面神社農村舞台」を野外ステージに見立てた音楽イベントです。アーティストと人形浄瑠璃の共演があるなど、通常の音楽イベントにとどまらない地域と歴史を感じることのできる特別なイベントとなっています。

音楽を目的とした参加者など初めて人形浄瑠璃を目にする人も多く、伝統芸能や農村舞台について認知・理解を深めてもらうきっかけになっています。さらに、来場者からは「ここでしか感じられない雰囲気や音楽」と好評を得ており、リピーターが多いのも本イベントの特徴です。地域外の方からの評価を受けることで、地域住民が農村舞台の存在意義を再確認し維持していくことにもつながっています。

また、会場内では地元の特産品である阿波晩茶やユズなどの販売しているほか、温泉施設と協力し宿泊者獲得や道の駅での特産品販売にもつながっており、地域活性化に大きく寄与しています。









次回開催日程

■開 催 日：令和2年10月18日（日）予定
■開催場所：徳島県那賀郡那賀町西納字かくれごや75
八面神社農村舞台
■問い合わせ先：
・団体名
丹生谷清流座
・住所
〒771-5406 徳島県那賀郡那賀町延野字王子原31-1
・電話番号：0884-62-0382

開催DATA

自治体名	徳島県那賀町
自治体人口	8,175人 ※R1.12末現在の住民基本台帳人口
主催団体	丹生谷清流座
開催回数	7回
開催日	平成30年11月3日（土）
開催場所	徳島県那賀郡那賀町西納字かくれごや75 八面神社農村舞台
観客数	140人

選考委員特別賞

第24回
ふるさとイベント大賞
選考委員会委員長表彰

フェスティビタス ナタリス 2019

「フェスティビタス　ナタリス」は、戦国時代の日本とヨーロッパの国際交流・歴史資産を地域資源として、当時のクリスマスを再現したイベントです。イベント名は当時伝えられたラテン語で、「クリスマスのお祭り」を意味しています。

織田信長が天下を統一しようとしていた1580年、長崎県島原半島には南蛮船が来航し、キリスト教と共に多くのヨーロッパ文化が渡来しました。当時の島原半島には日本初の神学校「有馬のセミナリヨ」が創立され、日本初のヨーロッパ派遣団「天正遣欧少年使節」の4人もセミナリヨの第一期生としてルネサンス期の最先端の学問を学びました。その後の江戸幕府のキリシタン弾圧、島原・天草一揆により当時の記録は日本国内に残されていませんが、イタリアやポルトガルの宣教師たちが伝えた報告書から戦国時代の南島原市を舞台としたヨーロッパ諸国との交流の様子が伺えます。こうした戦国時代のヨーロッパとの交流にスポットを当てて始まったのが、フェスティビタス　ナタリスです。



イベント時には、430年前の記録から再現した「南蛮行列」に参加できるとともに、日本人が初めて聞いた西洋音楽を聴き、南蛮料理やワインを楽しむなど、当時の人々が初めて出会ったヨーロッパの文化を体感できます。イベントのシンボルは高さ30㍍、日本最大級のクリスマスツリーで、ツリー沿いの長さ1.6㌔の街路樹171本に施したイルミネーションの道は南島原市の冬の風物詩となっています。



当時の国際交流を体験できる本イベントは、戦国時代に国際交流の舞台となった南島原市ならではの取り組みであり、イベントを通じて市民の国際交流への関心拡大・郷土愛の醸成にも大きく貢献しています。平成30年に「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」がユネスコの世界文化遺産となり、今後さらに国内外から参加者の増加が予想され、交流人口の拡大や知名度向上が期待されます。







次回開催日程

■開 催 日：令和2年12月5日（土）
■開催場所：長崎県南島原市北有馬町丁52番地
南島原市立有馬小学校グラウンド
■問い合わせ先：
・団体名
南島原市冬のお祭り実行委員会
・住所
〒859-2305 長崎県南島原市北有馬町戊2747番地
・電話番号：090-9587-1762
・URL：http://festivitas.web.fc2.com/

開催DATA

自治体名	長崎県南島原市
自治体人口	45,259人 ※R1.12末現在の住民基本台帳人口
主催団体	南島原市冬のお祭り実行委員会
開催回数	23回
開催日	令和元年12月7日（土）
開催場所	長崎県南島原市北有馬町丁52番地 南島原市立有馬小学校グラウンド
観客数	5,000人

次点

第24回
ふるさとイベント大賞

荒馬まつり



江戸時代が発祥とされる「荒馬まつり」は田植え後の神送り、サナブリ行事として伝承されてきた、今別町の伝統芸能である。町内には今別荒馬保存会、大川平荒馬保存会、二股荒馬保存会の3団体があり、いずれも青森県の無形民俗文化財に登録されている。毎年8月上旬に開催され、馬役の男性と手綱を取る女性が一対となって荒々しく跳ね回り、短い夏を彩っている。

現在、人口2500人ほど、高齢化率が50％を超える過疎・高齢化が進む今別町では、青函トンネル建設が終了した頃から地域の担い手が減少し、荒馬の継承が危ぶまれていた。しかし、30年ほど前から荒馬を通して東京都の小学生や全国各地の大学生などとの交流が始まり、現在では上記に加え大学のOB・OGを含め毎年300人以上来訪し、「関係人口」として地域のにぎわい創出および伝統芸能の継承に一役買っている。

「関係人口側」は荒馬および地域住民のおもてなし精神に魅力を感じて毎年来訪し、地元住民は「学生たちが一生懸命やってるのに自分たちが応えなくてどうする」と荒馬再興、継承に奮起する。今まで関心を示さなかった住民も感化され、地域のコミュニティ強化につながっている。地域の活気が出ることで、就職などで町外に出て行った子ども世代も荒馬の時期に帰省し、運営を手伝うという好循環が荒馬を通して形成されている。



次回開催日程

■開 催 日：令和2年8月5日（水）～ 9日（日）
8日（土）が海峡花火大会、合同運行
それ以外は各団体の自由運行となります。
■開催場所：海峡さざなみ公園及び今別町内各所
■問い合わせ先：
・団体名：今別町観光協会
・住所：青森県東津軽郡今別町大字今別字今別45-2
・電話番号：0174-35-2014
・MAIL：imabetu@aomorishokoren.or.jp
・URL：http://www.aomorishokoren.or.jp/shokokai/imabetu/

開催DATA

自治体名	青森県今別町
自治体人口	2,570人 ※令和元年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	今別町観光協会
開催回数	35回
開催日	令和元年8月3日～ 7日
開催場所	海峡さざなみ公園及び今別町内各所
観客数	10,000人

次点

第24回
ふるさとイベント大賞

第16回川俣シャモまつり in 川俣







福島県ブランド認証地鶏であり、川俣町の特産品である「川俣シャモ」は、阿武隈山地の豊かな自然に恵まれた地で、のびのびと育てています。

川俣シャモの特徴は、豊かな深みのあるコクと、適度な弾力の肉質で、かむほどに鶏本来の旨味が口の中に広がります。

川俣シャモまつりは、川俣シャモを一日中堪能できるまつりです。

川俣シャモの丸焼き、まるもっち餃子、シャモナゲット、シャモステーキ、手羽の一本焼き、焼き鳥、シャモ手打ちそば、親子丼、シャモ冷やしラーメン、焼きシャモスープ丼、シャモメンチ、メンチバーガー、ふりふりシャモ、一文字焼、山木屋太鼓バーガー、川俣シャモロングフライドポテトなど、数多くの川俣シャモ料理が提供されています。

ステージイベントとしては、川俣町で開催されている中南米音楽祭「コスキン･エン･ハポン」の出場者によるフォルクローレの演奏やダンスのほか、国内外で活躍している山木屋太鼓の迫力ある演奏が楽しめます。

一般参加の部では、「川俣シャモ料理の早食い競争」や「世界一長い川俣シャモの丸焼き」など、とても面白いイベントが目白押しです。世界一長い川俣シャモの丸焼きは長さ63㍍にもなり、105羽の川俣シャモを105人の「丸焼き戦士」が一度に焼きます。

この記録は毎年更新されており、川俣シャモまつりの目玉イベントになっています。

川俣シャモを普段食べていない方でも大いに楽しめるイベントとなっていますので、ぜひ川俣町で川俣シャモを堪能してください。

次回開催日程

■開 催 日：令和2年8月29日、30日の二日間
■開催場所：川俣町中央公民館
（福島県伊達郡川俣町字樋ノ口11）
■問い合わせ先：
・団体名
川俣シャモまつり実行委員会
・住所
福島県伊達郡川俣町字五百田30
・電話番号：024-566-2111
・MAIL：sangyo@town.kawamata.lg.jp
・URL：https://www.town.kawamata.lg.jp/

開催DATA

自治体名	福島県川俣町
自治体人口	12,955人 ※令和元年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	川俣シャモまつり実行委員会
開催回数	16回
開催日	平成30年8月25日、26日の二日間
開催場所	川俣町中央公民館（福島県伊達郡川俣町字樋ノ口11）
観客数	11,500人

次点

第24回
ふるさとイベント大賞

あるけあるけ初日詣大会

毎年1月1日、日の出前に浪江町役場をスタートし、大平山までの約3㌔を歩きます。ゴール地点では、温かい食事や記念品などが配布されるとともに、神楽の演舞などが披露されます。今年は浪江町青年会議所による出来たての「なみえ焼そば」が振る舞われたほか、「いこいの村なみえ入浴券」などが配られました。

このイベントは、昭和55（1980）年に浪江町役場の主催で始まりました。当時は、浪江町役場から請戸海岸まで歩き、浜では式典や神楽の演舞などが行われていました。また、参加者が毎年この日を楽しみになるよう、このイベントでのみ手に入る「干支キーホルダー」が記念品として配られました。1年に一つずつ増え、12年かけて十二支がそろうため、このキーホルダーを集めるという達成感が得られるのも魅力です。現在でも干支キーホルダーの配布は続けられています。

新年を祝福すると同時に、元日そのものを特別な時間として知人などと過ごしたいという意識が生じ始めた時代の流れをうかがうことができ、今に続く浪江町の正月行事として町民に根付いています。

平成23（2011）年3月、東日本大震災発生後から平成29（2017）年3月に町の一部地域で避難指示が解除されるまでの6年間は、やむなく中止となっていました。しかし、帰還した町民が集い、また浪江町の新たな出発（復興）を応援する方々に、かつての町のにぎわいを知ってほしいという思いから、平成30（2018）年に行事の再開を果たしました。震災から7年ぶりということもあり、県内外から多くの参加者が集まりました。令和3（2021）年からは、請戸海岸でのイベントとして復活を目指す声も高まっています。

日の出の時刻に大平山から海を臨むと、水平線から昇る美しい太陽を拝むことができます。その素晴らしさに参加者からは大きな歓声が上がります。震災で犠牲になられた方々へ鎮魂の想いをはせ、浪江町のさらなる復興、そして一年間の無病息災を願って、廃れることのない行事の一つとしてこれからも続けていきます。











次回開催日程

■開 催 日：1月1日
■開催場所：浪江町役場～大平山霊園
■問い合わせ先：
・団体名
浪江町
・住所
福島県双葉郡浪江町大字幾世橋字六反田7-2
・電話番号：0240-34-0247
・MAIL：namie15010@town.namie.lg.jp
・URL：https://www.town.namie.fukushima.jp

開催DATA

自治体名	福島県浪江町
自治体人口	17,166人 ※令和元年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	なみえ新春イベント実行委員会
開催回数	（令和2年の開催で）第34回目
開催日	毎年1月1日
開催場所	浪江町役場～大平山霊園
観客数	500人

次点

第24回
ふるさとイベント大賞

かさま新栗まつり

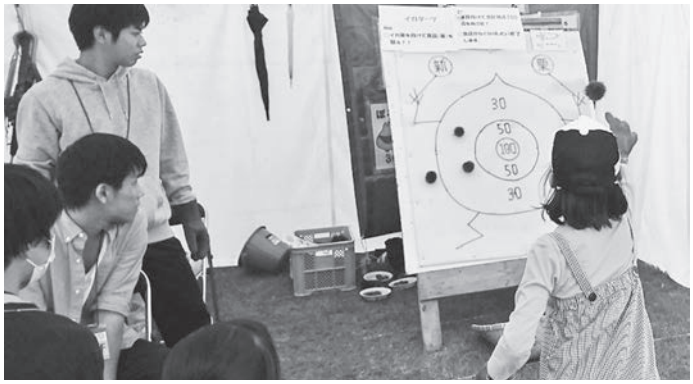
「かさま新栗まつり」は、茨城県笠間市の特産品である「栗」をテーマとした「栗づくし」のイベントです。「笠間の栗」は、穏やかで昼夜の寒暖差がある気候と火山灰土壌により、ふっくらとして薫り高く育つと言われ、古くから栽培が行われてきました。このような中、生産者、菓子店、飲食店、笠間焼陶芸家、行政関係者が集まり、「もっと栗のおいしさを知ってほしい」「販売するだけでなく栗に関するいろいろなことを考えていきたい」と「『笠間の栗』を考える会」を発足させました。そして栗が旬を迎える時期に、地元のみならず県内外の皆さんへ「笠間の栗」をPRするために開催しているのが「かさま新栗まつり」です。

かさま新栗まつりは、栗の①正しい知識の積極的な発信②ブランド価値の向上③地域産業としての発展④食育⑤郷土への愛着や興味の向上を目的とし、栗を使った商品か、栗に関連した商品のみを販売するイベントとして毎年9月末もしくは10月初めの土日に開催しています。

大人だけでなく子どもにも栗を身近に感じ、楽しんでもらえるよう、「いが栗ダーツ」などのゲームコーナー、「栗むき」や「栗スイーツ作り」などの体験コーナーを設けているほか、小学生が考えた栗の料理レシピを菓子店や飲食店が実際に商品化して販売する「かさまの『栗』アイディアレシピコンテスト」を開催しています。

かさま新栗まつりは年々来場者を増やし、県内では広く知られるようになりました。来場者の栗への関心も高まり、たくさんある品種の中から希望の品種を指定して買う人も現れるほどになりました。それに伴い、出店する菓子店や飲食店も栗の知識を深めるとともに、積極的にPRしています。今後も、かさま新栗まつりを通じて笠間の栗を多くの方へPRしていきたいと思います。







次回開催日程

■開 催 日：令和2年9月26日（土）、27日（日）
■開催場所：笠間芸術の森公園　イベント広場
■問い合わせ先：
・団体名
「笠間の栗」を考える会
・住所
茨城県笠間市中央三丁目2番1号
・電話番号：0296-77-1101
・URL：https://kasamashinkuri.wixsite.com/home

開催DATA

自治体名	茨城県笠間市
自治体人口	75,644人 ※令和元年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	「笠間の栗」を考える会
開催回数	12回
開催日	平成30年9月29日（土）、30日（日）
開催場所	笠間芸術の森公園　イベント広場
観客数	約71,000人

次点

第24回
ふるさとイベント大賞

国分川鯉のぼりフェスティバル

～地域の誇りと愛着を育むために～

今から30年ほど前、「国分川上に鯉のぼりを泳がそう」との発想をもとに決まったスローガンは「甦れ清流！国分川」。

江戸川を渡れば東京都という、千葉県の西端に位置する市川市は、1960年代初頭まで水田が多く残っており、川や水路で潤されていました。しかし、ベッドタウンとして次々に宅地化された結果、住宅地を流れる国分川も、生活雑排水による水質汚濁が進んでいくこととなりました。

「“地域の宝”であった国分川の流れを、これ以上悪くさせるわけにはいかない」との想いと、「“地域の宝”である子どもたちに、夢と希望と感動を与えられる清流のある“ふるさと”にしよう」という想いが合わさり、この「国分川鯉のぼりフェスティバル」が始まりました。

第1回では約80流であった鯉のぼりも、いまでは600流以上が掲流され、喧騒から少し離れたゆったりとした時間の中で、空を悠々と泳ぐ「まごい」や「ひごい」は壮観の一言です。

また、空を泳ぐだけでなく、国分川の水面を泳ぐ鯉のぼりの姿は、多くの人々を惹きつけ、外国や市外、県外からの来場者も呼び、多文化や他地域、多世代との交流を生むとともに、水質浄化への取り組みを続けていくことの大切さも伝えています。

輝きを取り戻している国分川と、治水機能を有し、普段は憩いの場や、子どもたちが走り回ることができるよう整備された調節池を会場とし、鳥や魚も住まう、訪れた人がくつろげる環境を取り戻すとともに、「鯉のぼり」の掲流を通して、地域住民が誇りと愛着を感じることができる“ふるさと”を育んでいます。

開催も29回を重ねておりますが、節目となる第30回以降においては、上流や下流の地域も巻き込めるような広がりのある「ふるさとイベント」としていきたいと考えております。











次回開催日程

■開 催 日：フェスティバル開催日は毎年5月4日
鯉のぼり掲揚日4月29日～5月5日
（今年度は中止）

■開催場所：千葉県市川市 国分川および国分川調整池周辺

■問い合わせ先：

・団体名
国分川鯉のぼり実行委員会

・住所
千葉県市川市稲越町79-15

・電話番号：090-5772-3075

・MAIL：p32c4h@bma.biglobe.ne.jp

開催DATA

自治体名	千葉県市川市
自治体人口	490,192人 ※令和元年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	国分川鯉のぼり実行委員会
開催回数	29回
開催日	令和元年4月29日～5月5日 （メインイベントは5月4日に開催）
開催場所	千葉県市川市 国分川および国分川調整池周辺
観客数	7,000名

次点

第24回 ふるさとイベント大賞

スミファ（すみだファクトリーめぐり）



「スミファ」は、墨田区の町工場を巡って、職人と話し、技術に触れ、ものが作られていく現場を肌で感じることのできるイベントです。普段なかなか見ることのできない、多彩なジャンルの工場・工房を一斉に公開（オープンファクトリー）します。

もともと墨田区は、江戸時代から続く「ものづくり」と「職人」の町です。現在でも多くの町工場や工房がひしめいています。そんな中、注目度が高いスカイツリーの開業を契機に、区は「ものづくりのまち すみだ」としてブランディングを進めてきました。その一環として、区内には技術力の高いものづくりの企業が多数あり、彼らがプライドを持って仕事に取り組んでいることを伝えようと、スミファが始まりました。

オープンファクトリーだけでなく、オリジナルツアーやワークショップ、スタンプラリー、工場直販など、様々な楽しみ方を用意しています。特に、初めて参加される人や巡り方が分からない人にはツアーがお薦めです。ものづくり女子ツアー、区内循環バスを利用したツアーなど、毎年何種類ものツアーを企画しているので、気に入るものがきっと見つかると思います。



企業側も、1日だけの参加や予約制ワークショップのみの受け入れなど、無理のない範囲で参加形態を選ぶことができます。参加する側も受け入れる側も、自由に、無理なく、気軽に利用できるところがスミファの魅力だと思います。

ものづくりの背景を知り、生産者と直接触れ合うことで、製品がより身近なものになるはずです。一方で、つくり手にとっても、一般の人に製造過程を見てもらうことで、自分たちのやっていることが当たり前じゃないと認識できます。そんな「ステキな出会い」をスミファでつくっていきます。町工場にとっても見に来てくださるお客さんにとっても、未来につながるキッカケになれば…と願っています。







次回開催日程

■開 催 日：令和2年11月21日（土）、22日（日）
■開催場所：墨田区内の工場・工房・博物館　等
■問い合わせ先：
・団体名
　スミファ実行委員会
・住所
　東京都墨田区吾妻橋1-23-20
・電話番号：03-5608-1437
・MAIL：SANGYOU@city.sumida.lg.jp
・URL：http://sumifa.jp/

開催DATA

自治体名	東京都墨田区
自治体人口	274,896人　※令和元年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	スミファ実行委員会
開催回数	7回（令和元年11月実施で8回目）
開催日	平成30年11月17日（土）、18日（日）
開催場所	墨田区内の工場・工房・博物館　等
観客数	約4,500人

次点

第24回
ふるさとイベント大賞

奈良田盆踊り復活祭

山梨県早川町の奈良田集落で「奈良田盆踊り復活祭」が実現し、しばらく途絶えていた地区の盆踊りの本格的な復活に向けて集落が活気づいている。

数々の伝説や独自の風習から、奈良田集落は「秘境」とも称されてきた。元は曲物職人が暮らす良材の産地で、各家庭には手作りの三味線があった。独特な民謡と踊りは、結婚式などのハレの場や集落での集まりとなれば、自然と演奏が始まってその場にいる者が踊り出す、そういうものであった。

地元で立ち上がった「白樺会」の50年以上にわたる活動によって、民謡と踊りは、保存・継承されてきた。活動の価値が認められ、1968年10月には、明治100年記念伊勢神宮奉納民謡全国大会に関東代表として出場した経験もある。高齢化で活動が滞りつつあったものの、近年では奈良田集落を出身とする町外在住者との協力を進め、Uターン、Iターンの移住家族も「白樺会」に加わり、2017年には定番の「奈良田追分」が「日本民謡8選」（日本フォークダンス連盟）にも選ばれた。悩ましかった地元での三味線演奏の後継者も育ちつつある。



この協力関係を背景とした盛り上がりのもと、風物詩だった盆踊りを復活させようという機運が生まれた。近年移住してきた若い世代が中心となって実行委員会を形成し、平成30年8月13日に開催を実現させたのが第1回奈良田盆踊り復活祭。演目として選ばれた「奈良田追分」「八幡」「エンサー」の3曲は、すべて生演奏、生歌唱によって披露され、本番は盛況であった。



このとき、「なんとしてでも奈良田の踊りを続けて、10年はこの取り組み（盆踊り）を続けたい」と実行委員が宣言。その言葉通り、令和元年8月11日には第2回を開催。この年に取り組んだちょうちんの新調に合わせ、早川町内の事業者に「提灯（ちょうちん）スポンサー」としての参画を募り、地元集落だけでなく、過疎・高齢化で地域行事が衰退している地域（自治体）全体を巻き込んだイベントとして発展させた。次年度（第3回）に向けた動きも始まっている。







次回開催日程

■開 催 日：令和2年8月10日（山の日）
■開催場所：山梨県南巨摩郡早川町奈良田
■問い合わせ先：
・団体名
「奈良田盆踊り復活祭」実行委員会
・住所
山梨県南巨摩郡早川町奈良田369（代表者宅）
・電話番号：090-9453-3221（担当：上原）
・MAIL：uehara@joryuken.net

開催DATA

自治体名	早川町（山梨県南巨摩郡）
自治体人口	1040人 ※令和元年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	「奈良田盆踊り復活祭」実行委員会
開催回数	1回
開催日	平成30年8月13日
開催場所	山梨県南巨摩郡早川町奈良田
観客数	150名余

次点

第24回
ふるさとイベント大賞

第5回 ウエルカム三才児まつり in スポーツパーク

「ウエルカム三才児プロジェクト」は、 しなの鉄道北しなの線の三才駅に、子どもが3歳になったことを祝って記念写真を撮りに来る家族をおもてなしする活動に平成23年から取り組んでいる。この活動を発展させ、地域の子育て家族を招いて一日楽しんでもらおうと、平成26年からは「まつり」を始めた。

第5回のまつりでは、節目の目玉企画として「アンパンマンショー」と「建設現場で働く自動車大展示」を行い、好評だった。まつりでは、メインステージで記念演奏、チアリーディング、親子ビクス、交通安全教室などを楽しみ、プレイランドにはミニ新幹線、ふわふわ、輪投げ、射的などのコーナーがある。単なる遊びではなく、スポーツの要素を取り入れ、サッカー教室などで体験することを重視している。



市民の「協働」の力で企画・開催することをコンセプトに、地域の各種組織、中学や高校、大学に呼びかけ、10代からシニアまで世代を超えたまつりとなっている。入場は無料で、資金は地域の企業や商店の協賛・広告支援で賄っており、これも協働の一形態と考えている。後援には、長野県、長野市と近隣の千曲市、須坂市、飯綱町、信濃町の各自治体のほか、保育・教育団体、福祉団体、経済団体、マスコミなど約50団体・組織が名を連ねている。

学校との連携が強化され、中学生のボランティアは139人に上った。地域のイベントが彼らの学びとなり、成長を促している。

民生児童委員が見守りを担当、赤十字奉仕団が救護を担い、6カ所の臨時駐車場とシャトルバスの運行を住民自治協議会が受け持つなど、地域を挙げてまつりを支えており、そうした取り組みによって子どもたちに優しい地域とへと変貌しつつある。「三才の地」だけでなく、北しなの線沿線の自治体との連携により、観光地のアピールにもつながりつつある。









次回開催日程

■開 催 日：令和2年10月頃　予定
■開催場所：北部スポーツ・レクリエーションパーク
■問い合わせ先：
・団体名
ウエルカム三才児プロジェクト
・住所
長野市三才3320-4
・電話番号：026-296-3311
・MAIL：sansai-p@zc.wakwak.com
・URL：https://www.facebook.com/ウエルカム三才児プロジェクト-1539701906259208/

開催DATA

自治体名	長野県長野市
自治体人口	376,056人 ※令和元年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	ウエルカム三才児プロジェクト
開催回数	5回
開催日	平成30年10月8日（月・体育の日）
開催場所	北部スポーツ・レクリエーションパーク（長野市三才）
観客数	1万人

次点

第24回
ふるさとイベント大賞

三嶋大祭り

三嶋大祭りは、毎年8月15～17日の3日間開催されます。古くから伊豆国一ノ宮である三嶋大社の例祭と地域の行事を重ねて行われてきた経緯があり、例年、50万人が訪れる三島市最大のイベントです。

市民から「大社の祭り」と呼ばれているように、「三嶋大社のつけ祭り」という、地域の歴史・文化・伝統と、祭りに対する誇りや郷土愛を表現するため、平成29年度より三島夏まつりから三嶋大祭りに名称変更しました。祭典期間中、三嶋大社境内および大社から三島広小路駅までの約700㍍の大通りが歩行者天国となり、街中がお祭り一色に染まります。

また、開催日によってテーマが変わるのも三嶋大祭りの特徴です。1日目は「山車とシャギリの日」と称して、三島市民が受け継いできたシャギリや山車の引き回しが行われます。2日目は「伝統芸能の日」と称して、源頼朝公の旗挙げ故事に基づいた、三嶋大祭りのメインイベントである「頼朝公旗挙げ行列」が行われます。例年、芸能人が頼朝役に扮(ふん)していて、平成30年度はタレントのつるの剛士さんが頼朝役を務め、大いに盛り上がりました。そして、最終日となる3日目は「踊りの日」と称して、伝統芸能「農兵節パレード」「みしまサンバパレード」などが実施されます。

また、三嶋大社は、平成30年度に文化庁より日本遺産として認定された「旅人たちの足跡残る悠久の石畳道-箱根八里で辿る遥かな江戸の旅路」の構成文化財であり、静岡県と神奈川県の2県をまたぐ箱根八里街道観光推進協議会を構成する小田原市と箱根町、また伊豆国一ノ宮の祭典として、伊豆地域から伊豆の国市、伊豆市、函南町の計5人の首長を招待し、広域連携と地域の連帯感の醸成を図りました。

そして、平成29年度より日本文化の魅力発信および次世代に誇れるレガシーを創出する文化プログラム「beyond2020」の取得、平成30年度には東京2020応援プログラム（祭り）を取得しまして、今後も世界に誇る祭りとして情報発信を継続していきます。









次回開催日程

■開　催　日：令和2年8月15日～ 17日
■開催場所：三嶋大社、三嶋大社～広小路駅前間の交通規制道路など中心市街地
■問い合わせ先：
・団体名
三嶋大祭り実行委員会
・住所
静岡県三島市一番町2-29
・電話番号：055-971-5000
・MAIL：info@mishima-kankou.com
・URL：http://www.mishima-cci.com/maturi/

開催DATA

自治体名	静岡県三島市
自治体人口	109,445人　※令和元年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	三嶋大祭り実行委員会
開催回数	―
開催日	平成30年8月15日～ 17日
開催場所	三嶋大社～広小路駅前間の交通規制道路など中心市街地
観客数	500,000人

次点

第24回 ふるさとイベント大賞

第12回 やらまいか ミュージックフェスティバル in はままつ



私たちの街、浜松は「楽器の街、音楽の街」と言われています。私たち市民はそれほど音楽を身近なものにしているのでしょうか？そんな問いに向き合う仲間たちが、それならば自分たち市民自身が参加して演奏者になり聴衆にもなる手作りの、街の音楽会を、やらまいか！と誕生したのが、「やらまいかミュージックフェスティバル」です。平成18年秋のことでした。「市民が奏でる、市民が楽しむ、市民がつくる音楽のお祭り」をコンセプトとして、中心市街地のあちこちに手作りの野外ステージを設営して路上ライブを展開する音楽祭を構想しました。

街角をステージにするのですから、関係各位のご理解とご協力は重要なことでした。行政、警察関係はもとより地元商店街、地元住民の方々と協議を重ね、必要となる許認可・届出も提出し準備をしました。また、浜松が誇る楽器メーカー各社の協力も大切なことでした。幸いにも皆様のご賛同を頂き、10月第2日曜日と前日土曜日の2日間、開催することができました。以後、毎年、同時期に開催して今年は第14回を数えます。



イベント運営については、市内外の企業団体、市民の皆様のご厚意の寄付、Tシャツやグッズのオリジナル商品、ガイドブックの売り上げを元にして、行政の補助金を頂くことなく運営しています。出演者は毎年4月から、HPやポスターチラシにて幅広く公募しています。音楽祭は22カ所のステージで、280 ～ 300組、約1500人のミュージシャンが様々なパフォーマンスを繰り広げます。各ステージに集まるお客様も大いに盛り上がり、中にはごひいきのバンドを毎年楽しみにしている方もいらっしゃいます。

また、楽器メーカーの協力で皆様が自由に参加できるイベントも行っています。このコーナーは子どもたちにも人気で、毎年お目当てにしている音楽愛好家もいらっしゃいます。このように「やらフェス」は、市民の音楽祭として毎年秋のイベントとして好評を得ています。







次回開催日程

■開 催 日：令和2年（2020年）10月10日（土）、11日（日）
■開催場所：ＪＲ浜松駅周辺（キタラ、ソラモ、遠鉄百貨店屋上他22カ所予定）
■問い合わせ先：
・団体名：やらまいかミュージックフェスティバル実行委員会
・住所
静岡県浜松市中区田町132番地の25You Stage Tamachi132-1001号室
・ＦＡＸ：053-533-3993
・MAIL：info@yaramaika-mfes.com
・URL：http://www.yaramaika-mfes.com/

開催DATA

自治体名	静岡県浜松市
自治体人口	802,792人 ※令和元年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	やらまいかミュージックフェスティバル実行委員会
開催回数	12回
開催日	平成30年10月13日（土）、14日（日）
開催場所	ＪＲ浜松駅周辺 （キタラ、ソラモ、遠鉄百貨店屋上他22カ所実施）
観客数	26,960人

次点

第24回
ふるさとイベント大賞

夜桜と竹灯篭宵まつり



東浦町は、徳川家康の母である「於大の方」の生誕地であることから、毎年4月中旬ごろに於大の方をモチーフとした「於大まつり」を開催しています。「夜桜と竹灯篭宵まつり」は、於大まつりを盛り上げるために前夜祭として平成24年度から開催しています。夜桜と竹灯篭宵まつりの舞台となる「於大のみち」は、東浦町の中央部を流れる明徳寺川沿いに整備された散策路で、4月上旬から中旬には、約1000本の八重桜が咲き誇ります。

夜桜と竹灯篭宵まつりでは、於大のみちの桜並木のライトアップに合わせて、竹灯篭と彫灯篭を配置し、来場者を楽しませます。見どころは、於大のみちの中央部に位置する「再会広場」に設置した約2000本の竹灯篭で、そこからこぼれ出る色とりどりの光と、その光に照らされた桜並木は圧巻です。

主催団体である「東浦竹灯篭の会」は、東浦自然環境学習の森保全・育成の会を母体としており、同施設の保全活動で伐採した竹を活用して竹灯篭を製作しています。伐採した竹は、処分に費用がかかるため、伐採竹の有効活用と於大まつりを盛り上げたいとの思いから活動を開始しました。当初は於大のみちの一部のみを照らす小規模なイベントでしたが、口コミで来場者が増えたため、規模の拡大や趣旨を凝らした新たな竹灯篭を製作し、来場者に楽しんでいただけるよう工夫しています。



夜桜と竹灯篭宵まつりは、伝統があるイベントではありませんが、環境保全活動の中で出た住民のアイデアが、地域振興につながった住民の、住民による、住民のためのイベントです。現在は提灯行列や同時開催のコンサート等も催すなど、町にとっても欠かすことのできないイベントになっています。

東浦竹灯篭の会は、宵祭りだけでなく、町内の介護施設や地域の夏祭り、秋の十五夜コンサート等で竹灯篭を展示するなど、竹灯篭を通じて、環境保全活動を全国に広げていきたいと考えています。







次回開催日程

■開 催 日：未定（新型コロナウイルスの影響により4月17日の開催を中止）

■問い合わせ先：

・団体名
東浦竹灯篭の会

・住所
東浦町大字石浜字平池上78番地の32

・電話番号：0562-83-2574

・MAIL：t44da@na.commufa.jp

・URL：https://higashiura-taketourou.jimdofree.com

開催DATA

自治体名	愛知県東浦町
自治体人口	50,168人 ※令和元年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	東浦竹灯篭の会
開催回数	8回
開催日	平成31年4月12日（金）
開催場所	於大のみち（再会広場）
観客数	約10,000人

次点

第24回
ふるさとイベント大賞

額田のダシまつり



福知山市夜久野町額田地区は、奥・且・上町・下町・向の5自治会からなり、かつては宿場町として栄えた地域です。この地域の秋祭りとして毎年10月の第2土曜（宵宮）から日曜（本宮）にかけて開催しているのが「額田のダシまつり」です。この行事は、京都府無形民俗文化財、福知山市無形民俗文化財として登録されています。

まつりの見どころは大きく分けて三つあります。

一つ目は、2階部分がぐるぐる回る「山車（上ダシ）」。二つ目は、五穀豊穣を願い、毎年その年の話題となったものや民話・童話などを題材に、この秋採れたばかりの野菜や果物・草木を材料にして趣向をこらしてつくる「つくりもん（下ダシ）」。三つ目は、本宮の午後から夜遅くまで額田地区を7人の青年たちが御神木を抱え走り回る「御神木の巡行」。どれも古くから地域で守り引き継がれてきたものです。

このうち、つくりもんは額田の地区ごとにそれぞれの技術が受け継がれており、得意とする技法が異なります。そのため、毎年訪れた人々は、公開された7基（額田地区5自治会と夜久野地域にある保育園〈下夜久野保育園〉、小中一貫校の夜久野学園4年生制作）を順に歩いて見て回るのが恒例です。令和元年度は、5自治会が「2020年大河ドラマ『麒麟が来る』の主人公明智光秀」をテーマに取り組みました。









次回開催日程

■開 催 日：令和2年10月10日（土）、10月11日（日）
■開催場所：京都府福知山市夜久野町額田地区
■問い合わせ先：
・団体名
額田のダシ振興会
・住所
京都府福知山市夜久野町額田1130番地
・電話番号：090-4640-6194

開催DATA

自治体名	京都府福知山市
自治体人口	77,682人 令和元年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	額田のダシ振興会
開催回数	不明
開催日	10月第2土・日曜日 （令和元年は10月12日（土）、10月13日（日））
開催場所	京都府福知山市夜久野町額田地区
観客数	約5,000人

次点

第24回
ふるさとイベント大賞

みかた残酷マラソン全国大会



「みかた残酷マラソン全国大会」（毎年6月の第2日曜開催）は、実行委員会を中心とした住民の力で運営する、「ランナーと住民の交流」を通じた地域活性化イベントです。

大会が開かれる香美町小代区は、人口約2000人、高齢化率48%超の地域で、氷ノ山後山那岐山（ひょうのせんうしろやまなぎさん）国定公園に指定された千㍍級の山々に囲まれています。

急峻な地形を利用したマラソンコースは、高低差408.8㍍（最高標高604.7㍍）の「残酷」な設定になっていますが、地すべり地帯を利用して耕作されている棚田や但馬牛の放牧場など見どころもたくさんあります。

本大会は1993年にスタートし、2019年に27回目を迎えました。地域内のほぼ全ての集落をランナーが通過し、地域住民の多くが給水所の運営やランナーの応援などで大会に携わっており、住民総出でランナーのお出迎えをしています。



地元の小中学生と兵庫県立村岡高校の生徒が、大会への申込者約3000人に手書きの応援メッセージを送り、大会当日には、ゴールとなる町立小代中学校で冷やしトマトや飲み物、そうめんなどを振る舞い、おもてなしを通じたランナーとの交流を図っています。

こうした「住民のおもてなしの心」が口コミで徐々に広がり、第23回大会以降は参加者数が地域住民の数を上回るほど好評を博しています。また、住民にとっては、大会の開催日が待ち遠しくなるなど、住民が誇りに思える一大イベントになっています。

入賞商品は、地域内の棚田で丁寧に育てられたコシヒカリの新米や、地元畜産農家により肥育された但馬ビーフなど全てが地元の特産品で賄われており、人口2000人の小さな地域が全国に誇ることができるモノとしてPRも行っています。







次回開催日程

■開 催 日：令和2年11月15日（日）
■開催場所：兵庫県美方郡香美町小代区
■問い合わせ先：
・団体名
　みかた残酷マラソン全国大会実行委員会
・住所
　兵庫県美方郡香美町小代区実山100
・電話番号：0796-97-3966
・MAIL：o_chikukou@town.mikata-kami.lg.jp
・URL：http://mikatazankoku.com/

開催DATA

自治体名	兵庫県美方郡香美町
自治体人口	17,338人 ※令和元年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	みかた残酷マラソン全国大会実行委員会
開催回数	27回
開催日	令和元年6月9日（日）
開催場所	兵庫県美方郡香美町小代区
観客数	700人

次点

第24回 ふるさとイベント大賞

サンタ×三田プロジェクト



三田市では、「三田（さんだ）」と語感が似ている「サンタ」を魅力資源として活用し、サンタクロースにちなんだイベントを通じて本市の魅力を発信するため、平成27年より「サンタ×（クロス）三田プロジェクト」を実施しています。

このプロジェクトは、三田市に対する市民の愛着を高めるとともに、市外のファンを増やすことを目的とし、12月を「サンタ月間」と位置付けて、「みんなとつくるSANTA CITY」を合言葉に市民、団体、事業者、報道機関と連携しながら市全体で盛り上げています。

令和元年のサンタ月間は、三田駅前のイルミネーションを点灯するオープニングセレモニーを皮切りに、市内各所で市民団体が主催するサンタ関連イベントやコンサートなど楽しい催しが行われました。また、「サンタのいるまち」と題した幼稚園児の絵画展や、「SANTA駅」の看板で飾られた神戸電鉄三田駅など、まちが一体となってクリスマスの雰囲気を演出しました。



さらに、プロジェクトの目玉として「SANTAバス」を運行するとともに、「風と光のサンタフェスタ2019＆スカイランタンリリース」を開催。SANTAバスは、全長18㍍にも及ぶ連節バス「オレンジアロー 連 SANDA」に乗車して、クリスマスイベントを楽しむ企画です。車内は歌やゲームで盛り上がる子どもたちの笑顔であふれました。

風と光のサンタフェスタ2019＆スカイランタンリリースは、三田市商工会青年部や三田青年会議所などの協力のもと、昼はステージやゲームコーナー・フードブースを楽しみ、夜は「スカイランタン」を空に浮かべました。スカイランタンは台湾で「天灯（てんとう）」と呼ばれ、願い事を託して空に舞い上がります。皆の想いや願いが込められたランタンのあかりが織りなす夜空は、とても幻想的な世界となりました。子どもから大人まで約4500人がこのイベントを満喫しました。

1カ月を通してまち全体が華やぐサンタ×三田プロジェクト。今後も継続して実施し、まちの魅力発信に努めてまいります。







次回開催日程

■開 催 日：令和2年12月1日～25日
■開催場所：三田市内
■問い合わせ先：
・団体名
三田市まちのブランド観光課
・住所
三田市三輪2丁目1-1
・電話番号：079-559-5217
・MAIL：machibrand@city.sanda.lg.jp
・URL：http://www.city.sanda.lg.jp/

開催DATA

自治体名	兵庫県三田市
自治体人口	111,913 人 ※令和元年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	サンタ×三田プロジェクト実行委員会
開催回数	5回
開催日	令和元年12月1日～25日 （風と光のサンタフェスタ2019：12月21日）
開催場所	三田市内 （風と光のサンタフェスタ2019：三田市役所 風の広場）
観客数	風と光のサンタフェスタ2019：4,500人

次点

第24回
ふるさとイベント大賞

ススキ提灯献灯行事及び大神輿渡御

御所市の中心市街地にある「鴨都波神社」では毎年、夏季大祭と秋季大祭宵宮に奈良県指定無形民俗文化財の「ススキ提灯献灯」が営まれています。

ススキ提灯献灯は、江戸時代中期に冷害などによる米の凶作に端を発した祭事です。1600年ごろに形成された「御所まち」と呼ばれる鴨都波神社の氏子町内会（35町内会）が、五穀豊穣・家内安全・無病息災を祈願し、町内会ごとに稲穂に見立てた高張提灯に神前で熾された御神火をともし、夕刻より神社に奉納します。

秋季大祭本祭りでは、総重量800㌔の大神輿をはじめ､6基の神輿やだんじりが町中を練り歩く「大神輿渡御」も江戸末期ごろから継承されております。

これらの祭事が復活したのは、今から27年前。地域活性化に取り組んでいた若者数人が集まり､「鴨都波神社には県下でも最重量級の大神輿がある。しかし、若者の祭り離れが進み、担ぎ手が減少。数十年もの間、大神輿が日の目を見ない年が続いているのでなんとか復興させよう」という話になり、まずは地元の若者だけで担がれて渡御が行われ､その翌年に「鴨の宮若衆会」が設立されました。



以来、神社の祭事全般を若衆会中心で運営しており、今では全国各地から祭り好きの若者が参加し大神輿渡御が実施されています。

これと並行して、高度経済成長期を境にすっかり下火になってしまっていたススキ提灯献灯行事も、氏子町内会がもっと楽しめるものにしようと試行錯誤を重ね、若衆会の中に提灯衆、太鼓衆、舞方衆、伊勢音頭衆などが順次結成され、各方面から注目されるススキ提灯の演舞が確立されました。一時は奉納される提灯が5基まで減りましたが、徐々に住民の継承機運が醸成され、近年は30基を超えて境内は大変な活気に包まれています。

一方、大神輿渡御についても、市内外から年齢・性別の区別なく多くの担ぎ手が集まり、令和元年には小学生から60代まで、外国人90人を含む総勢450人を超える参加者でにぎわいました。









次回開催日程

■開 催 日：ススキ提灯献灯行事：7月16日、10月9日
　　大神輿渡御：10月10日
■開催場所：鴨都波神社　及び　周辺氏子町内会
■問い合わせ先：
・団体名
　鴨都波神社
・住所
　〒639-2271 奈良県御所市514番地
・電話番号：0745-62-2176
・MAIL：kamotuba@gmail.com
・URL：kamotuba.com

開催DATA

自治体名	奈良県御所市
自治体人口	25,525人　※令和元年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	鴨都波神社　鴨の宮若衆会
開催回数	ススキ提灯献灯行事：年2回　　大神輿渡御：年1回
開催日	ススキ提灯献灯行事：7月16日、10月9日 大神輿渡御：10月10日
開催場所	鴨都波神社　及び　周辺氏子町内会
観客数	ススキ提灯献灯行事：約3000人 大神輿渡御：約2000人（沿道観客含む）

次点

第24回
ふるさとイベント大賞

能登原とんど



「能登原とんど」は、広島県福山市沼隈町能登原地区に伝わる伝統行事で、ふるさと意識の高揚を図り、文化の香り高いまちづくりに寄与することを目的に、「能登原とんど保存会」によって開催されている。高さ10㍍近いわら飾りの「とんど」をきらびやかに飾り付けて地域を練り歩く正月の風物詩として知られている。

とんどは、広場や河原に竹で簡単なやぐらを組んで燃やすのが一般的だが、能登原とんどでは担ぐことのできるとんどを作って練り歩いてから燃やす。

子どもたちは冬休みになると、大人と一緒にとんど作りの準備を始める。能登原6地区それぞれが華やかな飾り付けをしたとんどを作り、中に子どもを入れて担ぎ、太鼓をたたきながら家々を練り歩く。さらに、各地区のとんどを小学校のグラウンドに集めてぶつけ合う。これは全国的にも珍しく、この辺りにしかないものとして福山市重要民俗文化財に指定されている。最後には、今年一年の無病息災、家内安全、火災予防を祈願し、とんどを燃やす。

能登原とんどの起源は定かではないが、室町時代もしくは江戸時代初期とされている。練り歩くとんどは広島県内では福山市内の旧城下町と能登原地区の2カ所あったが、能登原とんどが市重要民俗文化財としては県内唯一の練り歩くとんどになっている。

能登原とんどをさらに盛り上げるため、住民が一丸となってメディアへの露出や後継者の育成などに積極的に取り組んでいる。







次回開催日程

■開 催 日：令和3年1月10日（日）
■開催場所：能登原各地区
■問い合わせ先：
・団体名
能登原とんど保存会
・住所
広島県福山市沼隈町大字能登原1589-7
・電話番号：084-987-4460
・MAIL：notohara-kouminkan@city.fukuyama.hiroshima.jp

開催DATA

自治体名	広島県福山市
自治体人口	468,880人 ※令和元年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	能登原とんど保存会
開催回数	不明
開催日	毎年1月第2日曜日
開催場所	能登原各地区
観客数	約500人

次点

第24回 ふるさとイベント大賞

うだつマルシェ



「うだつマルシェ」は、四国のへそと呼ばれる徳島県三好市池田町にある「うだつの上がる町並み」で行われる一日マーケットです。

もともとは「四国酒まつり」開催の際の食事処として小規模に行っていました。このイベントに目を付けた地域おこし協力隊の吉田絵美氏が、三好市以外の魅力ある商品を扱う出店者に呼びかけ、食べ物だけでなく雑貨など四国中の魅力的な商品が集まるマーケットとして注目されるようになりました。

マルシェは▽参加者には文化財である「うだつの町並み」の中を店主との話を楽しみながら歩き、文化財を身近に感じてもらう▽出店者には会話を通じて販売スキル・商品レベルの向上に役立ててもらう―という意図を持ち、現在は市内外から70店舗ほどを公募して毎年夏と冬に開催しています。

マルシェ当日、会場ではダンスグループによる「ストリートパフォーマンス」などのイベントも開催されます。「うだつちんどん」は、昔この通りを流していたちんどん屋を再現しており、仮装したメンバーが通りを練り歩く姿がうだつマルシェの顔として親しまれています。



また、イベントは参加者が企画を持ち込むことも可能となっていて、その時々で工夫を凝らしたイベントが開催されています。第20回のマルシェでは持ち込み企画による音楽フェスティバルが開催され、たいへん盛況でした。

魅力ある商品に加え、工夫を凝らしたイベントの数々、同時開催される夏の「JCわくわくフェスタ」と冬の「四国酒まつり」の相乗効果により、四国内外から幅広い世代が訪れ、町全体ににぎわいをもたらしています。さらに、マルシェをきっかけに、会場として使用されていた空き家が再生され、サテライトオフィスや地域交流拠点として使用されたり、お店を開いたりと地域活性化にも寄与しています。







次回開催日程

■開　催　日：令和3年2月27日予定　（夏の開催は未定です）
■開催場所：徳島県三好市池田町本町通り
（うだつの町並み）
■問い合わせ先：
・団体名
うだつマルシェ実行委員会
・住所
徳島県三好市池田町マチ2438
・電話番号：080-4033-3966
・MAIL：info@machisora.com
・URL：http://kirari-honmachi.ciao.jp/

開催DATA

自治体名	徳島県三好市
自治体人口	25,568人　※令和元年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	うだつマルシェ実行委員会
開催回数	20回
開催日	平成31年2月23日
開催場所	徳島県三好市池田町本町通り（うだつの町並み）
観客数	5,500人

次点

第24回
ふるさとイベント大賞

俳句甲子園
全国高等学校俳句選手権大会









松山市は、日本最古の名湯といわれる道後温泉をはじめとする温泉を擁し、正岡子規や高浜虚子など多くの俳人を輩出した「いで湯と文学のまち」です。俳句が盛んなまちであることから、平成26年には「俳都松山」を宣言しました。

この松山の地から起こった「俳句甲子園」は、平成10年に第1回大会が開催され、これまで毎年行われてきました。平成30年の第21回大会には40都道府県110校143チームがエントリーしました。高校生が5人1組のチームとなり、俳句を作る力と鑑賞する力を競います。例年6月に行われる地方大会と投句審査を勝ち上がった計32チームが、8月に松山市で開催される全国大会に集い、今では松山の夏の風物詩として定着しています。

全国大会1日目には予選リーグの組合せ抽選会、ウェルカムパーティなどが行われ、全国から集まった高校生たちが交流を深めます。

2日目には大街道商店街アーケードで予選リーグと予選トーナメントが行われます。商店街内に数カ所設けられる会場は、高校生たちの闘いと多くの観覧者の熱気に包まれます。

3日目には松山市総合コミュニティセンターで敗者復活戦と決勝リーグ、決勝が行われて優勝チームが決まります。表彰式では、団体賞のほか個人最優秀賞（文部科学大臣賞）など個人賞が発表され、各賞を受賞したチームや選手が喜びを爆発させ、皆がそれを称えます。

想いを凝縮させた五・七・五の十七音の詩、俳句を通じて全国各地から多くの高校生が集まり、俳句に親しみながら交流するこの大会は、高校生の国語教育の一環としてのみならず、日本語力の向上や日本文学への興隆、そして何よりも高校生が地域や世代を超えて交流するという新鮮で貴重な社会的経験になり、豊かな人間性を育んでいます。また、次代を担う若者たちの新鮮な発想と創造性、しなやかで軽やかな感受性は、この小さな詩の未知の魅力を気付かせてくれるきっかけになるものです。

今後も俳句を通じ、地域間・世代間の交流と若者の文化活動の輪を全国に広げていきたいと思います。

次回開催日程

■開 催 日：令和2年8月21日（金）～ 23日（日）
■開催場所：大街道商店街、
松山市総合コミュニティセンター
■問い合わせ先：
・団体名
NPO法人俳句甲子園実行委員会
・住所
愛媛県松山市柳井町2丁目2 1-3 グリーンフィールドヒラオカ
・電話番号：089-943-1512
・MAIL：info@haikukoushien.com
・URL：https://www.haikukoushien.com/

開催DATA

自治体名	愛媛県松山市
自治体人口	511,405人 ※令和元年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	NPO法人俳句甲子園実行委員会
開催回数	第21回
開催日	平成30年8月17日（金）～ 19日（日）
開催場所	大街道商店街、松山市総合コミュニティセンター
観客数	約5,000人

次点

第24回
ふるさとイベント大賞

ダルメイン 世界マーマレードアワード & フェスティバル日本大会

本大会は、英国・湖水地方ダルメインで2006年から続く国際的なマーマレードのコンテストを、日本で初めて開催したものです。英国大会を主催するジェーン・ヘーゼル・マコッシュ氏が、日本の出品数の増加とその品質の高さから「ぜひ日本でも開催したい」との意向を持っていることを知り、日本有数の柑橘（かんきつ）産地として誘致活動を展開し、開催に至りました。

主に輸入された「セヴィルオレンジ」を使用する英国とは異なり、多種多様な柑橘が生産される日本らしく、本大会には地域特産の柑橘を使用したマーマレードが数多く出品されました。プロの部とアマチュアの部を合わせ、国内は42都道府県から、海外では英国、フランス、スペイン、香港、台湾の五つの国と地域から計1614の出品があり、国内外の高い関心を集める大会となりました。

マーマレードの最終審査には、英国の審査員2人に加え、国内からも料理人の落合務氏や陳建一氏、パティシエの鎧塚俊彦氏ら各界で活躍される方々にお集まりいただきました。

大会期間中（令和元年5月12～19日）は、地元の商工会や市民団体などが企画した様々なイベントで大会を盛り上げてもらったほか、英国大会の関係者には小中学校など市内各所を訪問していただき交流を図りました。メインとなる18日と19日には、「八幡浜みなっと」で表彰式を行うとともに、出品されたマーマレードの展示やステージイベント、ブース出店により、来場された方々にマーマレードと柑橘の魅力を発信しました。

なお、アマチュアの部の出品料（1品1500円、計190万9500円）は全額寄付することとしており、本会では平成30年7月豪雨の被災地のうち愛媛県内で特に被害が大きかった宇和島、大洲、西予各市に寄付しました。











次回開催日程

■開 催 日：未定（新型コロナウイルスの影響により5月16、17日の開催を中止）

■問い合わせ先：

・団体名：ダルメイン世界マーマレードアワード＆フェスティバル日本大会実行委員会事務局

・住所
愛媛県八幡浜市北浜一丁目1番1号

・電話番号：0894-22-3117

・MAIL：marmalade@city.yawatahama.ehime.jp

・URL：http://marmalade-festival.jp/

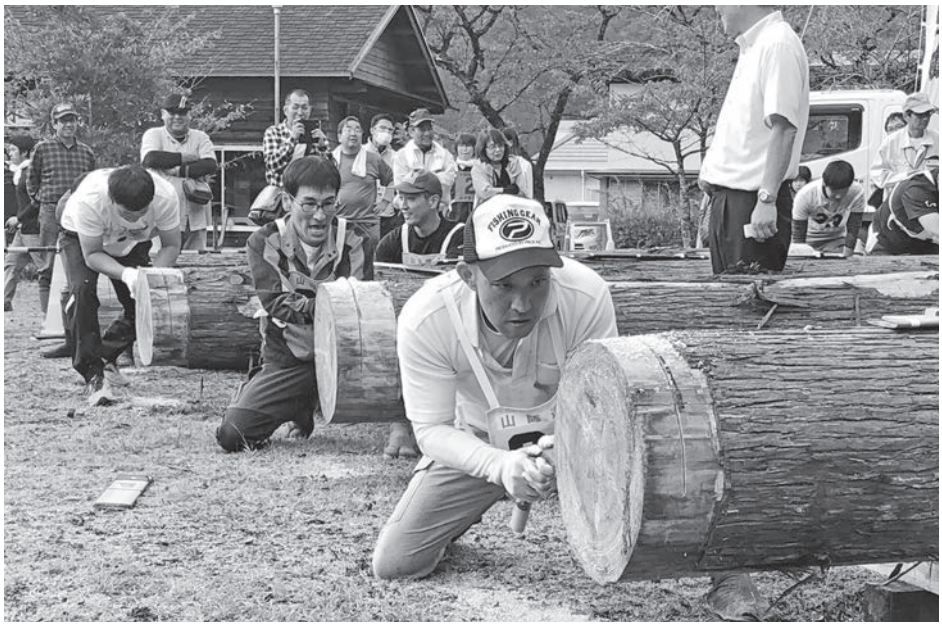
開催DATA

自治体名	愛媛県八幡浜市
自治体人口	33,850人 ※令和元年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	ダルメイン世界マーマレードアワード＆フェスティバル日本大会実行委員会
開催回数	1回
開催日	令和元年5月12日（日）～19日（日）
開催場所	道の駅・みなとオアシス「八幡浜みなっと」ほか
観客数	22,500人

次点

第24回 ふるさとイベント大賞

山師達人選手権大会



山師達人選手権大会は、林業の技術などから派生した個性豊かな技能を競い合う「お山の運動会」です。森林・林業に親しみ、山や環境への関心を深めてもらうことを目的に毎年開催しており、令和元年10月に第27回目の大会を開催したところです。

競技内容は、▽直径約30㌢の杉丸太の早切りを3人のリレーで行う「木挽き競争」▽直径約25㌢、長さ3㍍、重さ約100㌔の杉丸太をロープで引っ張って3人のリレーで運ぶ「輓馬競争」▽地面に立てた杉の木を3人がリレーでそれぞれ6㍍まで登り旗を立てて戻ってくる「杉の実取り競争」の3種目を予選として行い、成績上位の4チームが決勝戦へと進みます。

決勝戦では、直径約50㌢の「ビッグ杉丸太」の早切りを行う「木挽き達人競争」と、杉の立木をおの、のこぎり、くさびを使って切り倒し、目標までの近さを競う「杣達人競争」の2種目で雌雄を決します。また、本大会は女性の部も同時に開催しており、通常の山師の部より小さいサイズの木で競技を行っています。



馬路村は、村の総面積の96%が山林であり、魚梁瀬杉に代表される良質な木材産地として、古くは豊臣秀吉の時代、そして土佐藩となった以降も「土佐の林業」を支えてきました。かつては一つの村に二つの営林署が存在するなど、林業の村として栄えてきましたが、安価な外材の輸入増加や後継者不足などによって全国的に林業が衰退してしまいました。

そんな状況の中、昭和60年に「基幹産業である林業を絶やすことはできない」を合言葉に、村の林業後継者が集まり「馬路村林業青年クラブ」を発足。そのメンバーが平成4年に奈良県のとある村で行われた「全日本そまびと選手権大会」に参加して、「よし、こんな大会をうちでもやろうじゃないか」と決意したのが、本大会の始まりとなりました。







次回開催日程

■開 催 日：令和2年10月18日（予定）
■開催場所：馬路村魚梁瀬地区　丸山公園（予定）
■問い合わせ先：
・団体名
　馬路村役場　産業建設課
・住所
　高知県安芸郡馬路村大字馬路443
・電話番号：0887-44-2336
・MAIL：sanken@vill.umaji.kochi.jp

開催DATA

自治体名	高知県馬路村
自治体人口	858人 ※令和元年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	山師達人選手権大会実行委員会
開催回数	27回
開催日	令和元年10月20日
開催場所	馬路村魚梁瀬地区　丸山公園
観客数	約250人

次点

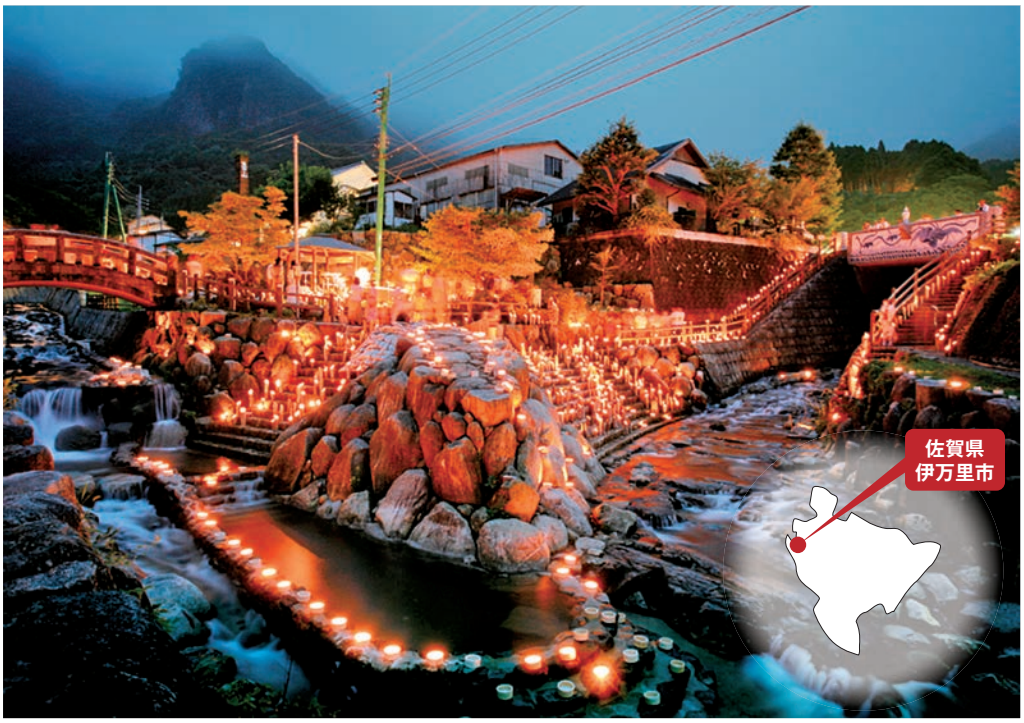
第24回
ふるさとイベント大賞

伊万里大川内山 ボシ灯ろうまつり

江戸時代に鍋島藩の藩窯が置かれ、現在も30軒の窯元が建ち並ぶ伊万里市大川内山で、夏のイベントとして16年前に風鈴まつりを始めました。風鈴まつりの期間は6月中旬～8月31日と2カ月半あることから、期間中盤のイベントとして「ボシ灯ろうまつり」を開催しています。

背後を険しい岩山に囲まれた大川内山に夕闇が迫る頃、ろうそくに火がともされます。幻想的なライトアップと涼やかな風鈴の音、川のせせらぎが幽玄の世界に誘います。

「ボシ」とは焼物を焼くときに使う耐火性の器で、以前はその中に作品を入れ、まきの灰などが付かないようにしていました。現在は電気やガスの窯で焼物を作っているため、ボシはほとんど使わなくなりましたが、このボシを灯ろうに見立てて再利用し、焼物の町ならではの特徴あるまつりとして企画しました。



大川内山の窯元とボランティアスタッフ50人ほどで準備にあたり、約3000個のボシを並べます。開催当初は大川内山の窯元だけでイベントを行っていましたが、9年前から地元の飲食店にも参加してもらい、お客様にはボシ灯ろうを眺めながら食事やお酒を楽しんでいただいています。また、5年前からは地元の大川内小学校の全生徒に絵を描いてもらい、巻紙にしてライトアップしています。まつりを盛り上げるために、地元園児の太鼓の演奏や合唱団のコーラス、箏曲（そうきょく）、碗琴（わんきん）コンサートも実施しています。





次回開催日程

■開 催 日：令和2年7月18日（土）予定
■開催場所：伊万里市大川内山窯元群一帯
■問い合わせ先：
・団体名
伊万里鍋島焼協同組合
・住所
佐賀県伊万里市大川内町乙1806
・電話番号：0955-23-7293
・MAIL：imarinabeshima@cotton.ocn.ne.jp
・URL：http://www.imari-ookawachiyama.com/

開催DATA

自治体名	佐賀県伊万里市
自治体人口	54,580人 ※令和元年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	伊万里鍋島焼協同組合
開催回数	16回
開催日	7月中旬
開催場所	伊万里市大川内山窯元群一帯
観客数	1,000人

次点

第24回
ふるさとイベント大賞

由布院牛喰い絶叫大会



1970年代の由布院は自然豊かで静かな美しい町でしたが、経済的には苦しい時代でした。美しい草原（牧野）がリゾート開発に売られてしまうという危機に、「牛一頭牧場運動」を始めました。全国から牛のオーナーを募り、お礼としてお米やみそなどを贈りました。飼育牛は数倍に増え、危機にあった牧野は牧草地として今に残りました。

さて、牛のオーナーたちが自分の牛を見ようと由布院へやって来ますが、どれが自分の牛か分かりません。そこで、「牧野でオーナーと飼育農家で一緒に牛鍋を！」と始まった交流会。草原から由布院盆地に向かって誰の声が大きいか競い始めました。これが「牛喰い絶叫大会」の始まりです。今では、毎年700人近くの人々がおいしい「豊後ゆふいん牛」を食べにやって来るようになり、由布院を代表する環境イベントになっています。

当日は、自然豊かな牧草地を特別に開放してもらった会場で、豊後ゆふいん牛の炭火焼を食べ、それぞれ思いのたけを絶叫!!声の大きさや内容のユニークさを競います。秋にススキが揺れる高原で皆さまのご来場をお待ちしております。









次回開催日程

■開 催 日：令和2年10月11日（日） ※予定です。
■開催場所：由布市湯布院町並柳牧場
■問い合わせ先：
・団体名
一般社団法人 由布院温泉観光協会
・住所
〒879-5114 大分県由布市湯布院町川北4-1
・電話番号：0977-85-4464
・MAIL：info@yufuin.gr.jp
・URL：www.yufuin.gr.jp/

開催DATA

自治体名	大分県由布市
自治体人口	34,356人 ※令和元年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	一般社団法人 由布院温泉観光協会
開催回数	第45回
開催日	毎年10月体育の日
開催場所	由布市湯布院町並柳牧場
観客数	600名 （+スタッフ100名）

次点

第24回
ふるさとイベント大賞

いぶすき菜の花マラソン大会



「いぶすき菜の花マラソン大会」は、日本で一番早い日本陸上競技連盟公認の市民マラソン（フルマラソン）として、毎年1月の第2日曜日に開催しています。

昭和57年にわずか306人でスタートした小さな大会でしたが、今では県内をはじめ全国各地、遠くは海外から1万3000人弱のランナーが訪れる、指宿市の一大イベントに成長しました。

このマラソン大会の最大の魅力は何といっても「おもてなし」です。約2000人のボランティアと市民総出の応援があり、ランナーの皆さんを励まし、元気づけてくれます。沿道で声援を送る地元住民の中には、臨時の休憩所や差し入れを提供して疲れをねぎらう人もおり、コースの至る所で指宿のおもてなしを感じていただくことができる大会となっております。

また、応援の仕方も様々で、歌って励ましたり、太鼓の演奏を披露したりするなど、走っていて勇気が湧いてきます。食べ物も、地元の特産品であるそら豆やかつお節、さつまいもなどが振る舞われます。このほかにも、ランナーの体のことを考えた差し入れがたくさんあり、「走る前よりも太るマラソン」と言われています。



コース沿いには、鮮やかな黄色いじゅうたんを広げたような菜の花畑があるほか、九州最大の湖である「池田湖」、薩摩富士とも称される秀峰「開聞岳（めいぴ）」など風光明媚な景観が迫り、ランナーを楽しませてくれます。

選手にとってはスタートからゴールまで記憶に残る「おもてなし日本一」のマラソン大会です。そのため、参加されるランナーの中にはリピーターもたくさんいらっしゃいます。

大会終了後は、指宿市内各所にある温泉や、世界でも珍しい砂むし温泉で疲れた体を癒やすことができ、マラソンに参加される方にとって、とても良い環境となっております。

いぶすき菜の花マラソン大会は、これからもおもてなしに磨きをかけてさらに成長していきたいと思います。







次回開催日程

■開 催 日：令和3年1月10日（日）
■開催場所：いぶすき菜の花マラソン大会コース（指宿市）
■問い合わせ先：
・団体名
いぶすき菜の花マラソン大会実行委員会
・住所
指宿市湊二丁目5-33 （公社）指宿市観光協会内
・電話番号：0993-22-2550
・URL：第39回いぶすき菜の花マラソン大会公式
http://www.ibusuki-nanohana.com

開催DATA

自治体名	鹿児島県指宿市
自治体人口	39,996人 ※令和2年4月1日現在の住民基本台帳人口
主催団体	いぶすき菜の花マラソン大会実行委員会
開催回数	39回
開催日	令和2年1月12日（日）
開催場所	いぶすき菜の花マラソン大会コース（指宿市）
観客数	12,002人（参加者数） ※沿道の観客数等は把握しておりません。

次点

第24回
ふるさとイベント大賞

伊平屋 ムーンライトマラソン

伊平屋村は沖縄県最北端の有人離島で、豊かな自然、人情味あふれる人柄、島民同士の強い絆が最大の地域資源です。その地域資源を活用した地域振興の一環として「伊平屋ムーンライトマラソン」はスタートし、昨年度、第25回の節目を迎えました。本大会は、その名の通り、毎年10月の満月に近い土曜日に開催され、夕方から夜にかけて自然を満喫しながら島1周を走り抜くマラソン大会です。このような「夜走るマラソン大会」は世界にも類を見ないと自負しています。特に日差しが気になる女性に人気があり、島ならではのおもてなしに魅了されたリピーターの多さも特徴の一つです。前夜祭や後夜祭では伊平屋産のお米や、牛、もずくを使った料理をはじめ、地酒である泡盛「てる照しま島」を使ったカクテルなどが振舞われます。ステージでは本村の子どもたちによる現代版組踊（ミュージカルのようなもの）や島外ゲストによるライブなども行われ、マラソン以外の楽しみも盛りだくさんです。



6年前には北海道・奥尻島にそのノウハウを伝授し、「北海道南西沖地震」20年後の新たな島興しの目玉として「奥尻ムーンライトマラソン」が誕生しました。

伊平屋村は人口約1230人の小さな島です。それゆえ、様々な業種の島民や100人余りの島外スタッフが一致団結し、年1回の一大イベントである本大会を支えてくれています。大会当日は子どもからお年寄りまでが沿道に出てランナーへ声援を送るだけでなく、港でのお出迎え・お見送りも島を挙げて盛大に行います。まさに、人と人とのつながりが本大会を成功裏に導いている要因といえます。







次回開催日程

■開　催　日：令和2年10月31日（土）
■開催場所：メイン会場：友愛と健康の広場
　　コース：伊平屋村全域
■問い合わせ先：
・団体名
　伊平屋ムーンライトマラソン実行委員会
・住所
　沖縄県島尻郡伊平屋村我喜屋217-27
・電話番号：0980-46-2867
・MAIL：moon@vill.iheya.okinawa.jp
・URL：https://iheya-moonlight.jp

開催DATA

自治体名	沖縄県伊平屋村
自治体人口	1,231人　※令和元年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	伊平屋ムーンライトマラソン実行委員会
開催回数	25回
開催日	令和元年10月12日（土）
開催場所	メイン会場：友愛と健康の広場　コース：伊平屋村全域
観客数	1,120人（エントリー数。実際の出走者数は959人）

地域づくり5月号 特集編（通巻371号） 令和元年度ふるさとイベント大賞 令和2年5月1日 一般財団法人 地域活性化センター発行

宝くじは、みなさまの豊かな暮らしに役立っています。



宝くじは、図書館や動物園、学校や公園の整備をはじめ、
少子高齢化対策や災害に強い街づくりまで、さまざまなかたちで、
みなさまの豊かな暮らしに役立っています。

一般財団法人 日本宝くじ協会は、宝くじに関する調査研究や
公益法人等が行う社会に貢献する事業への助成を行っています。

一般財団法人
日本宝くじ協会
http://jla-takarakuji.or.jp/